

41
205

第四新法纂要

第四新法纂要目次 七月ヨリ十月卅
一日ニ至發令

法律

一 土地收用協議會規則(法律第五十四號)	一
二 紙幣交換基金特別會計法中追加(法律第五十六號)	四
三 會計法補則(法律五十七號)	五
四 商法ニ依リ株式會社債券發行方(法律第六十號)	十
五 日本銀行條例中改正(法律第六十一號)	十三
六 郵便貯金條例(法律第六十三號)	十五
七 出師準備ニ關スル物品検査ノ件(法律第七十號)	二十二
八 銀行條例(法律七十二號)	二十三
九 貯蓄銀行條例(法律七十三號)	二十六



- 一 廿三年法律第三號土木費借入ニ關スル件(法律第七十四號) 三十丁
- 一 預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件(法律第七十五號) 三十一丁
- 一 稅關法(法律第八十號) 三十二丁
- 一 小包郵便ヲ以テ外國ニ輸出スル物品關稅免除(法律第八十二號) 三十九丁
- 二號) 四十丁
- 一 命令ノ條項違反ニ關スル罰則ノ件(法律第八十四號) 四十二丁
- 一 府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員府縣會議員ノ選舉區域等ノ件(法律第八十五號) 四十四丁
- 一 間接國稅犯則者處分法(法律第八十六號) 五十二丁
- 一 府縣稅徵收法(法律第八十八號) 五十六丁
- 一 訴願法(法律第九十五號)

- 一 行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件(法律第九十六號) 六十四丁
- 勅令
- 一 官吏遺族扶助法納金收入規則(勅令第九十五號) 六十七丁
- 一 廿三年度歲出豫算中第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ノ件(勅令第九十二號) 六十八丁
- 一 商業及ヒ船舶ノ登記ニ關スル件(勅令第九十三號) 七十四丁
- 一 官有地特別處分規則(勅令第九十五號) 七十六丁
- 一 供託規則(勅令第九十五號) 七十九丁
- 一 艦船ノ乘員俸給糧食料前渡ノ件(勅令第九十號) 八十一丁
- 一 政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約ノ件(勅令第九十三號) 八十二丁

- 一 稅關規則(勅令第二百三號) 八十三丁
 - 一 稅關管轄區域(勅令第二百四號) 九十九丁
 - 一 省令廳令府縣令警察令ニ關スル罰則ノ件(勅令第二百零八號) 百二丁
 - 一 間接國稅犯則者處分ニ關スル書類送達ノ件(勅令第二百三十二號) 百四丁
 - 一 帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給規則(勅令第二百六十三號) 百六丁
- 省令
- 一 官吏遺族扶助法ニ係ル仕拂命令等書式ノ件(省令第一百七號) 百十一丁

- 一 仕拂命令等紛失ノ件取扱方(省令第十八號) 百二十丁
 - 一 諸證書中ノ金員數字々體用方(省令第二十一號) 百二十二丁
 - 一 稅關特許手數料(省令第二十二號) 百二十三丁
 - 一 誤拂過渡整理手續(省令第二十七號) 百二十五丁
 - 一 過年度支出計算書々式中改正ノ件(省令第二十八號) 百二十九丁
- 訓令
- 一 金庫出納事務規程附屬書式中區別(訓令第九號) 百三十一丁
 - 一 內國稅徵收費取扱順序中追加(訓令第一百一號) 全丁
 - 一 官吏遺族扶助法納金收入規則取扱順序(訓令第一百三號) 百三十二丁
 - 一 諸貸付金取扱順序(訓令第一百五號) 百四十二丁
 - 一 內國稅徵收費取扱順序中追加(訓令第一百六號) 百四十六丁

- 一 恩賞諸祿仕拂取扱順序中改正(訓令第百十七號) 百四十六丁
- 一 仕拂命令等記號付記ノ件(訓令第百十八號) 百四十八丁
- 一 仕拂命令等記載方(訓令第百十九號) 百四十九丁
- 一 検査員ノ任免等執行方(訓令第百二十號) 百五十丁
- 一 領收證書等紛失ノ件取扱手續(訓令第百二十一號) 全 丁
- 一 支出計算書様式(訓令第百二十三號) 百五十五丁
- 一 租稅收入證明規程及租稅調定ニ關スル件(訓令第百二十四號) 百五十六丁
- 一 租稅收入證明規程中保證書ニ係ル件(訓令第百二十五號) 百六十七丁
- 一 土地検査費仕拂金額明細書報告手續(訓令第百二十六號) 百六十八丁
- 一 大阪本金庫各本金庫間振替金取扱順序(訓令第百二十七號) 百六十九丁
- 一 稅關管轄區域制定ニ付違犯者等通知方(訓令第百二十八號) 百七十八丁

- 一 内國稅徵收費取扱順序中追加(訓令第百二十九號) 百七十九丁
- 一 身元保證金拂戻請求書々式(訓令第百三十號) 全 丁
- 一 出納官吏辨償金整理科目ノ件(訓令第百三十一號) 百八十一丁
- 一 領收證書金庫へ回送途中紛失處分(訓令第百三十二號) 全 丁
- 一 租稅外諸收入ニ係ル會計規則中検査員任免執行方(訓令第百三十三號) 百八十二丁
- 一 爲換納金取扱順序(訓令第百三十四號) 百八十三丁
- 一 同上ニ付納人ニ對シ注意方(訓令第百三十五號) 二百一丁
- 一 收入官吏委託徵收取扱手續(訓令第百三十六號) 二百三丁
- 一 甲廳ノ寄托保管金乙廳へ移送取扱方(訓令第百三十八號) 二百四丁
- 一 内國稅徵收費ニ係ル下検査ノ件(訓令第百三十九號) 二百五丁

法律

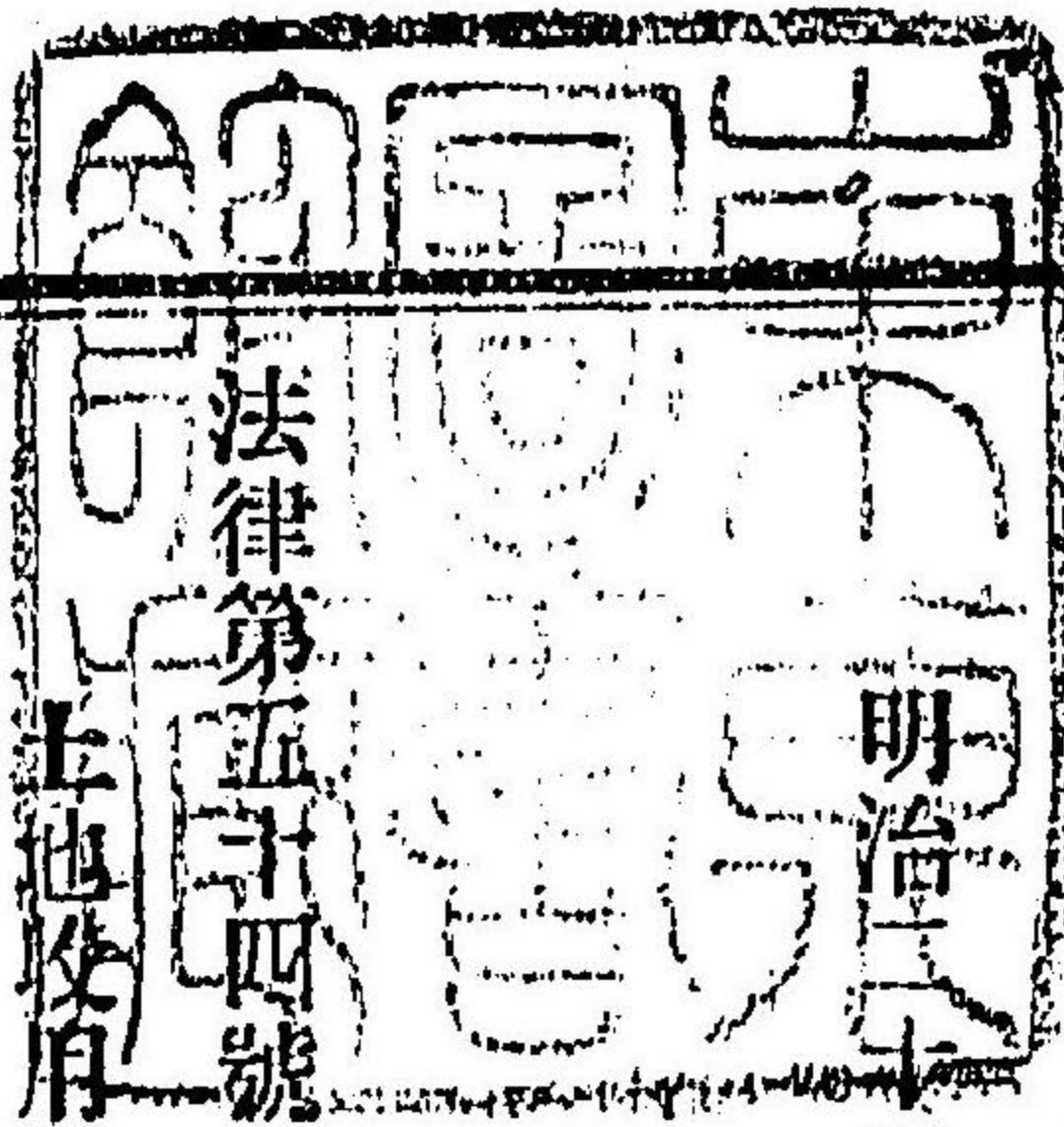
朕土地收用協議會規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治三十三年七月二十五日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋

内務大臣 伯爵西鄉從道



土地收用協議會規則

第一條 土地收用法ニ依リ工事ノ認定ヲ得タル起業者ハ同法第八條第一項

ニ基キ其工事ノ仕様及收用スヘキ土地ノ補償金額ニ付協議ヲ遂クル場合

ニ於テ必要ト認ムルトキハ同項ノ書類ヲ添ヘ地方長官ニ申立テ官吏ノ出

土地收用協議會規則

張ヲ請ヒ協議會ヲ開クコトヲ得但官ノ起業ニ係ルトキハ主務長官ヨリ其書類ヲ地方長官ニ送付シ官吏ノ出張ヲ求ムルコトヲ得

第二條 第一條ニ依リ地方長官ヨリ出張ヲ命セラレタル官吏ハ日時及場所ヲ示シ起業者官ノ起業ニ係ルトキハ共主任官吏及所有者竝關係人ヲ呼出シ協議會ヲ開クヘシ但少クモ開會十日前前條ノ書類ヲ市町村長ニ送付シ之ヲ所有者及關係人ニ示サシムヘシ

協議會ニ於テハ先ツ工事ノ仕様ヲ協議シ補償金額ニ及フモノトス但補償金額ニ關シテハ先ツ鑑定人ノ意見ヲ聞クヘシ

鑑定人ハ三名以下トシ府縣參事會ノ意見ヲ聞キ地方長官之ヲ命ス但府縣制ヲ實施セサル地方ニ於テハ府縣常置委員ノ意見ヲ聞クモノトス正當ノ理由ナクシテ協議會ニ出席セス又代人ヲモ差出サ、ル者アルトキ

ハ工事ノ仕様及補償金額ニ異議ナキモノト見做スヘシ

第三條 出張官吏ハ其協議會ヲ統宰シ協議ノ終結シタルモノハ之ヲ筆記セシメテ起業者及所有者竝關係人ニ讀聞ヒ起業者及所有者竝關係人ト共ニ署名捺印スヘシ

起業者所有者又ハ關係人ニ於テ筆記ノ謄本ヲ請求スルトキハ之ヲ交付スヘシ

第四條 協議會ニ於テ協議ノ終結セサル事件アルトキハ出張官吏ハ起業者及所有者竝關係人ノ申立及鑑定人ノ意見ニ自己ノ意見ヲ付シ土地收用審査委員會ノ裁決ヲ求ムル爲メ土地收用法第八條第二項ノ手續ヲナスヘシ

第五條 出張官吏及鑑定人ノ旅費日當竝協議會ノ費用ハ總テ起業者ノ負擔トス

朕紙幣交換基金特別會計法中追加ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十九日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋

大藏大臣 伯爵松方正義

法律第五十六號

明治二十三年法律第二十四號紙幣交換基金特別會計法第二條中左ノ通追加

ス

政府ハ金貳千貳百萬圓ヲ限リ日本銀行ヨリ借入ヲ爲シ前項ノ交換基金ニ
組入ルヘシ

朕樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ會計法補則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋

内務大臣 伯爵西郷從道

司法大臣 伯爵山田顯義

大藏大臣 伯爵松方正義

陸軍大臣 伯爵大山 巖

遞信大臣 伯爵後藤象二郎

外務大臣 子爵青木周藏

法律第五十七號

會計法補則

第一條 明治二十三年度歲出豫算中左ノ費用ハ明治二十四年度ノ豫算ニ於テ憲法第六十七條ニ規定シタル大權ニ基ケル既定ノ歲出トス

- 一 文武官ノ俸給及文官退官賜金
- 二 陸海軍軍事費憲兵費屯田兵費
- 三 賞勳年金及褒賞費
- 四 外國條約及約束ニ依レル支出

海軍大臣 子爵樺山資紀
 文部大臣 芳川顯正
 農商務大臣 陸奥宗光

五 各廳ノ廳費及經常修繕費

第二條 帝國議會開會前ニ發布セラレタル法令ニ基ク左ノ費用ハ法律ノ結

果ニ由ルノ歲出トス

- 一 帝國議會經費
- 二 裁判所並會計検査院經費
- 三 恩給扶助料罷役恤金及死傷手當
- 四 徵兵費
- 五 徵稅費 證券印紙切手類製造買戻押印費鑑札製造費所得稅調查委員手當市町村ニ交付スル徵稅費滯納處分費差押物件買上代
- 六 囚徒費
- 七 遞信事業及航路標識費
- 八 内外國難破船費

九 沖繩縣及小笠原島地方費

十 備荒儲蓄

十一 北海道拂下土地買上代

十二 恩賞及救助費

第三條 明治二十四年度歲出豫算ニ於テ左ノ費用ハ憲法第七十六條第二項

ニ規定シタル政府歲出上ノ義務トス

一 神社費

二 公債償還利子及拂手數料

三 既ニ定マレル効力アル命令ニ依リ毎年各地方ニ付與スヘキ公共工事費補助及警察費聯帶支辨金

四 沖繩縣諸祿

五 既ニ定マレル効力アル命令ニ依リ航運鐵道製造殖産ノ會社及病院學

校ニ付與スヘキ補助又ハ利子保證

六 雇外國人ノ俸給恩給及手當

七 法律上ノ賠償及訴訟費

八 諸拂戻金

九 國庫金取扱費

十 預金利子

十一 既約アル地所家屋借料

第四條 明治二十三年度以前ノ歲出豫算ニ於テ數年ヲ期シタル事業ニシテ

明治二十四年度ニ至ルマテ未タ竣工ニ至ラサルモノハ繼續費ノ例ニ依ル

朕商法第二百六條ニ依リ發行スヘキ債券ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布
セシム

御名 御璽

明治二十三年八月八日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋
大藏大臣 伯爵松方正義

法律第六十號

第一條 商法第二百六條ニ依リ株式會社債券ヲ發行スルハ總株金半額以上
ノ拂込アリタル後ニ於テスヘシ

第二條 債券ノ發行額ハ株金ノ拂込金額ヲ超過スルコトヲ得ス

第三條 債券ヲ發行セントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ主務省ノ認許ヲ

受クヘシ

第四條 債券ハ一通毎ニ其債務金額、利子ノ歩合及仕拂時期、發行ノ年月日、
番號、商號、社印、取締役ノ氏名、印、債權者ノ氏名ノ外左ノ事項ヲ記載スル
コトヲ要ス

一 會社ノ營業所

二 株金總額及株金拂込額

三 債券償還ノ初期及最終期

四 會社開業ノ年月日

五 存立時期ヲ定メタル會社ハ其時期

六 認許ヲ受ケタル事

第五條 株式會社ハ債券ヲ發行スルトキハ債券原簿ヲ備ヘ債券一通毎ニ區

分シテ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 債權者ノ氏名住所
 - 二 債權ノ金額番號
 - 三 利子ノ歩合
 - 四 債券發行ノ年月日及讓渡ノ年月日
 - 五 債券償還ノ初期及最終期
- 第六條 債券ノ讓渡ハ取得者ノ氏名ヲ債券及債券原簿ニ記載スルニアラサレハ會社ニ對シテ其効ナシ
- 第七條 株式會社ハ營業時間中債券原簿ノ展開ヲ請求スル者アルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス此場合ニ於テハ請求人ニ對シテ二十錢以内ノ手数料ヲ求ムルコトヲ得

第八條 取締役ハ左ノ場合ニ於テハ五圓以上五十圓以下ノ過料ニ處セララル

- 一 債券ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ
- 二 債券原簿ヲ備ヘス又ハ之ニ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

朕日本銀行條例中改正ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ商法實施ノ日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年八月八日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋
 大藏大臣 伯爵松方正義

法律第六十一號

日本銀行條例中左ノ通改正ス

第十九條 理事ハ株主總會ニ於テ選舉シ大藏大臣之ヲ命シ監事ハ株主總會ニ於テ之ヲ選舉ス

理事ノ任期ハ四年トシ監事ノ任期ハ三年トス

理事監事ハ任期中他ノ銀行又ハ會社等ノ役員タルヲ許サス

第二十條 總裁ハ每半期ニ通常株主總會ヲ招集ス

總裁ハ臨時ノ事項ヲ議スル爲メ必要ト認ムルトキハ臨時株主總會ヲ招集ス

總裁ハ監事ノ全員又ハ株主總會ノ會員タル者五十名以上ヨリ會議ノ目的ヲ示シテ請求スルトキハ臨時株主總會ヲ招集セサルコトヲ得ス

株主總會ノ會員ハ開會ノ六十日前ヨリ引續キ十株以上ヲ所有スル者ニ限ル

株主總會ニ於テハ會員ニ代理ヲ委託スルノ外他人ヲ以テ代理人トナスコトヲ得ス

株主總會ノ會員ハ株數十箇ニ付投票一箇ノ權利ヲ有ス十一株以上ハ五十株毎ニ一箇ノ投票權ヲ増加ス但他人ノ代理委託ヲ受クル者ハ其代理ニ屬スル權利ハ十箇以上ヲ超ユルコトヲ得ス

朕郵便貯金條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年八月十二日

內閣總理大臣 伯爵山縣有朋
遞信大臣 伯爵後藤象二郎

法律第六十三號

郵便貯金條例

第一條 郵便貯金ノ事務ハ遞信大臣之ヲ管理ス

第二條 郵便貯金ハ遞信大臣ノ指定スル郵便電信局郵便局ニ於テ其預入拂渡ヲ取扱フモノトス

遞信大臣ニ於テ必要ト認ムル場所ニハ特ニ郵便貯金預所ヲ設置シ郵便貯金ノ預入ヲ取扱ハシムルコトアルヘシ

第三條 郵便貯金ノ預入ハ貯金通帳ヲ以テ證トシ其拂戻ハ拂戻證書ヲ以テ

證トス

第四條 郵便貯金一人一度ノ預金ハ拾錢以上トシ端數ハ厘位ニ限ル一人一日ノ預金ハ五拾圓以下トス

郵便貯金一人ノ預金總額ハ元利合セテ五百圓ニ超過スルコトヲ得ス

第五條 郵便貯金利子ノ割合ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

郵便貯金ノ利子ハ毎年三月三十一日ヲ期トシテ之ヲ計算シ元金ニ加ヘ四月ヨリ更ニ利子ヲ付スヘシ

郵便貯金ハ之ヲ預リタル月及拾錢未滿ノ端數ニハ利子ヲ付セス

郵便貯金拂戻ノ請求アリタルトキハ拂戻證書發付ノ月ヨリ利子ヲ付セス
郵便貯金ノ利子計算上厘位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ除棄スヘシ

第六條 郵便貯金預ケ人ハ何時ニテモ郵便貯金ノ全額又ハ其幾分ノ拂戻ヲ

請求スルコトヲ得但幾分拂戻ノ場合ニハ其未タ元金ニ加ヘサル利子ハ拂戻ヲ請求スルコトヲ得ス

第七條 郵便貯金預ケ人ハ其貯金ノ幾分ヲ以テ公債證書ノ購入保管ヲ請求スルコトヲ得但其公債證書ハ額面五拾圓又ハ五拾圓ヲ遞加シタルモノニ限ル

郵便貯金預ケ人ハ何時ニテモ前項保管ニ係ル公債證書ノ下渡ヲ請求スルコトヲ得

郵便貯金預ケ人貯金金額ノ拂戻ヲ請求スルトキハ保管ニ係ル公債證書モ同時ニ其下渡ヲ請求スヘシ

第八條 郵便貯金ノ預ケ金額第四條ノ制限ニ超過シタルトキハ其旨ヲ貯金預ケ人ニ通知シ預ケ金額ヲ制限以内ニ引直サシムヘシ

前項ノ通知ヲ發シタル後六十日以内ニ引直ヲ爲ササルトキハ貯金預ケ人ノ爲メ其貯金ヲ以テ公債證書ヲ購入スルモノトス但此場合ニ於テ購入スル公債證書ハ額面五拾圓ヲ超過スルコトヲ得ス

第九條 郵便貯金通帳ハ一人一冊ヲ限リトス若シ二冊以上ノ通帳ヲ受領シテ貯金預入ヲ爲シタル者アリタルトキハ最初受領セシ通帳ニ記載セル貯金ノ外利子ヲ付セスシテ拂戻ヲ爲サシム若シ二冊以上通帳ノ日附同一ナルトキハ其貯金最多額ノモノニ利子ヲ付シ其他ノモノニハ總テ利子ヲ付セスシテ拂戻ヲ爲サシム

第十條 郵便貯金預ケ人ハ最初貯金ノ預入ヲ爲シタル月ヨリ滿一年毎ニ其通帳ヲ遞信省ニ差出シ前期間利子ノ記入ヲ受クヘシ但一年ノ終期四月又ハ五月ニ當ルモノハ之ヲ六月ニ差出スヘシ

第十一條 郵便貯金ハ其預ケ人最後ニ貯金預入ヲ爲シタル日又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出シ其書換又ハ利子ノ記入ヲ受ケタル日又ハ拂戻ヲ請求シタル日ヨリ起算シ十年間預入ヲ爲サス又ハ拂戻ヲ請求セス又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出ササルトキハ滿期ノ翌月ヨリ利子ヲ付セス但保管ニ係ル公債證書ノ利子ハ此限ニアラス

尙二十年間貯金ノ預入ヲ爲サス又ハ拂戻ヲ請求セス又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出ササルトキハ其貯金ハ政府ノ所得トス

前項貯金ヲ政府ノ所得トスル場合ニ於テ保管ニ係ル公債證書アルトキハ其公債證書モ併テ政府ノ所得トス

若シ第二項ノ期限内ニ貯金ノ預入ヲ爲シ又ハ拂戻ヲ請求シ又ハ通帳ヲ遞信省ニ差出シタルトキハ其翌月ヨリ利子ヲ付ス

第十二條 郵便貯金ノ拂戻金又ハ下渡ヲ請求シタル公債證書ハ拂戻證書又ハ下渡證書ノ日附ヨリ一箇年以内ニ受取ルヘシ若シ此期限内ニ受取ラサルトキハ之ヲ供託所ニ寄託スヘシ

第十三條 郵便貯金預ケ人ハ郵便貯金ヲ家督相續人ニ讓與スル場合ヲ除ク外其名前書換ヲ請求スルコトヲ得ス

第十四條 郵便貯金預ケ人ニ損害ヲ蒙ラシメ政府其辨償ノ責ニ任スヘキ場合ニ於テハ郵便貯金預ケ人ハ其事故ノアリタルコトヲ知リタル日又之ヲ知リ能ハサルトキハ次期ノ利子記入期限ヨリ一箇年以内ニ其辨償ノ請求ヲ爲スヘシ若シ其期限内ニ請求ヲ爲ササルトキハ政府其責ヲ免カルモノトス

第十五條 郵便貯金事務ニ關スル郵便物ハ郵便稅ヲ免除ス

第十六條 郵便貯金ノ受渡ニ關スル書類ハ證券印稅ヲ免除ス

第十七條 本條例施行ノ細則ハ遞信大臣之ヲ定ム

附則

明治十五年十二月第五十九號布告郵便條例第一百五十七條乃至第二百二條及第二百四十二條第二項ハ本條例施行ノ日ヨリ廢止ス

朕陸海軍出師準備ニ屬スル物品検査ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋

陸軍大臣 伯爵大山巖

海軍大臣 子爵樺山資紀

法律第七十號

陸海軍出師準備ニ屬スル物品ニ對シテハ陸海軍大臣其ノ責ニ任シ會計検査院法ヲ適用スルノ限ニ在ラス

朕銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年八月二十三日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋

大藏大臣 伯爵松方正義

出師準備ニ屬スル物品検査ノ件 銀行條例

法律第七十二號

銀行條例

第一條 公ニ開キタル店舗ニ於テ營業トシテ證券ノ割引ヲ爲シ又ハ爲替事業ヲ爲シ又ハ諸預リ及貸付ヲ併セ爲ス者ハ何等ノ名稱ヲ用非ルニ拘ラス
總テ銀行トス

第二條 銀行ノ事業ヲ營マントスル者ハ其資本金額ヲ定メ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第三條 銀行ハ每半箇年營業ノ報告書ヲ製シ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ニ送付スヘシ

第四條 銀行ハ每半箇年財産目錄貸借對照表ヲ製シ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第五條 銀行ハ一人又ハ一會社ニ對シ資本金高ノ十分ノ一ヲ超過スル金額ヲ貸付又ハ割引ノ爲ニ使用スルコトヲ得ス

資本金總額ノ拂込ヲ了ラサル銀行ニ於テ一人又ハ一會社ニ對シ其拂込高ノ十分ノ一ヲ超過スル金額ヲ貸付又ハ割引ノ爲ニ使用スルコトヲ得ス
第六條 銀行ノ營業時間ハ午前第十時ヨリ午後第四時マテトス但營業ノ都合ニ依リ之ヲ増加スルコトヲ得

第七條 銀行ノ休日ハ大祭日、祝日、日曜日及銀行營業地ニ行ハル、定例ノ休日トス但止ヲ得サル事故アルトキハ地方長官ニ届出テ豫メ新聞紙其他ノ方法ヲ以テ公告シタル上休業スルコトヲ得

第八條 大藏大臣ハ何時タリトモ地方長官又ハ其他ノ官吏ニ命シテ銀行ノ業務ノ實況及財産ノ現況ヲ検査セシムルコトヲ得

第九條 第二條ノ規定ニ違反シ大藏大臣ノ認可ヲ受ケスシテ銀行ノ事業ヲ營ミタル者ハ商法第二百五十六條ノ例ニ依テ處分ス

第十條 銀行ニ於テ第三條ノ報告若ハ第四條ノ公告ヲ爲サス又ハ其報告中若ハ公告中ニ詐偽ノ陳述ヲ爲シ若ハ事實ヲ隱蔽シタルトキハ商法第二百六十二條ノ例ニ依テ處分ス

第八條ノ検査ヲ受ルコトヲ拒ミタルトキハ商法第二百五十八條ノ例ニ依テ處分ス

第十一條 此條例ハ日本銀行橫濱正金銀行國立銀行ニ適用セス

朕貯蓄銀行條例ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年八月二十三日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋

大藏大臣 伯爵松方正義

法律第七十三號

貯蓄銀行條例

第一條 複利ノ方法ヲ以テ公衆ノ爲ニ預金ノ事業ヲ營ム者ヲ貯蓄銀行トス
銀行ニ於テ新ニ一口五圓未滿ノ金額ヲ定期預リ若ハ當座預リトシテ引受ルトキハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ム者ト爲シ此條例ニ依ラシム

第二條 資本金三萬圓以上ノ株式會社ニアラサレハ貯蓄銀行ノ業ヲ營ムコトヲ得ス

貯蓄銀行條例

第三條 貯蓄銀行ノ取締役ハ銀行ノ義務ニ付連帶無限ノ責任ヲ負フモノトス

但其責任ハ退任後一箇年ノ滿了ニ因リテ消滅ス

第四條 貯蓄銀行ハ貯蓄拂戻ノ保證トシテ資本入金ノ半額ヨリ少カラサル金額ヲ利付國債證券ニテ備ヘ置キ之ヲ供託所ニ預ケ入ルヘシ

第五條 貯蓄銀行ハ左ニ掲クル事項ノ外其資金ヲ運轉スルコトヲ得ス

第一 貸付

第二 證券ノ割引

第三 國債證券及地方債證券ノ買入

第六條 貯蓄銀行ニ於テ前條ニ依リ貸付ヲ爲スハ其期限六箇月以内ニシテ國債證券地方債證券ヲ質ト爲シタル場合ニ限ル其割引ヲ爲スハ支拂資力

ニ付疑フヘキ理由ノ存セサル者二名以上ノ裏書アル爲替手形約束手形ニ限ルヘシ

貯蓄銀行ハ國債證券及地方債證券ノ定期買買ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 貯蓄銀行ニ於テ其定款ヲ變更セントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第八條 銀行ニシテ貯蓄銀行ノ事業ヲ營マントスルトキハ地方長官ヲ經由シテ大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第九條 貯蓄銀行ニシテ此條例ノ規定ニ違反シタルトキハ其取締役ヲ五十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

貯蓄銀行ニアラスシテ貯蓄銀行ノ業ヲ營ミタルトキハ營業主又ハ會社ノ業務擔當社員若ハ取締役ヲ前項ノ罰ニ處ス

第十條 此條例ニ特別ノ規定ヲ設ケサルモノハ總テ銀行條例ニ依ル

朕明治二十三年法律第三號ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十七日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋

内務大臣 伯爵西鄉從道

大藏大臣 伯爵松方正義

法律第七十四號

明治二十三年一月法律第三號ハ府縣制施行ノ地方ニ限り之ヲ廢止ス但シ府縣制施行以前法律第三號第二條ニ依リ既ニ備荒儲蓄金ヨリ借入ノ契約ヲ爲

シ未タ其借入ヲ了セサルモノハ其契約ヲ繼續スルコトヲ得

朕預金ニ制限ヲ置キ整理公債證書ニ交換ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年八月二十七日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋

大藏大臣 伯爵松方正義

法律第七十五號

第一條 預金規則第一條第二第三ニ依リ預金局ニ預リタル金額三百圓以上ニ達スルトキハ預ケ人ノ請求ニ依リ整理公債證書ヲ購入シテ之ヲ預ケ人ニ交付スルコトヲ得

第二條 前條預金ノ額貳千圓ヲ超過スルトキハ預金局長ハ其超過額ヲ以テ整理公債證書ヲ購入シテ之ヲ預ケ人ニ交付スルコトヲ得

第三條 前二條ニ依リ購入シタル整理公債證書ハ預金ノ全額ヲ仕拂又ハ拂戻シタル場合ヲ除クノ外所有者ノ望ニ依リ之ヲ預金局ニ保管スルコトヲ得

第四條 本法ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス

朕稅關法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十三年十一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年九月六日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋
大藏大臣 伯爵松方正義

法律第八十號

稅關法

第一條 各開港ニ於テ西洋形船舶外國通航ノ日本形船舶ノ出入及貨物ノ輸出入ニ關スル事項ハ總テ稅關ノ所管トス

第二條 各開港外ニ於ケル外國貿易取締ニ關スル事項ハ其所管ノ稅關ニ於テ之ヲ處理ス

第三條 船舶ハ法律命令ニ特例ヲ掲ケタル場合ヲ除ク外不開港ヨリ外國ニ向テ出港シ若ハ外國ヨリ不開港ニ入港スルコトヲ得ス犯ス者ハ船長ヲ千圓ノ罰金ニ處ス

外國通航船ハ法律命令ニ特例ヲ掲ケタル場合ノ外開港ヲ經テ不開港ニ入港スルコトヲ得ス犯ス者ハ罰前項ニ同シ

第四條 外國ニ通航セントスル船舶ハ豫メ税關長ノ認許ヲ受クヘシ其認許ヲ受ケスシテ外國ニ向テ出港シタル者ハ船主ヲ千圓ノ罰金ニ處ス其積載シタル貨物ハ之ヲ沒收ス

第五條 納税ヲ遁脱若ハ減少センカ爲メ詐偽ノ文書ヲ税關ニ差出シタル者ハ百二十五圓ノ罰金ニ處ス

第六條 輸入手數未済ノ貨物ヲ積載シタル沿海通航船ヨリ税關規則ニ依リ仕向港税關ニ差出シタル積荷目錄仕出港税關ニ差出シタル積荷目錄ニ對シ貨物不足アリテ其所爲不正ニ出タルトキハ船長ヲ千圓ノ罰金ニ處ス

第七條 税關規則ニ依リ輸出禁制品ヲ開港間ニ回漕スル者ハ同規則ニ定ム

ル期限内ニ仕向港税關ノ陸揚證書ヲ仕出港税關ニ差出スヘシ違フ者ハ原價同額ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第八條 税關規則ニ依リ貨物ヲ開港間ニ回漕シ其回漕免狀ヲ紛失若ハ遺忘シタル者同規則ニ定ムル期限内ニ其手續ヲ爲サ、ルトキハ其回漕シタル貨物原價百分ノ五ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス

第九條 積荷目錄ニ記載セサル輸入貨物ヲ陸揚シタル者ハ其貨物輸入税ノ外同額ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十條 輸出禁制品ヲ輸出シタル者又ハ法律命令ニ背キ不開港ニ於テ輸出入貨物ノ積卸ヲ爲シタル者ハ其貨物ヲ沒收ス

税關規則ニ依リ陸揚免狀ヲ受ケスシテ貨物ヲ船卸シ船積免狀若ハ回漕免狀ヲ受ケスシテ船積シ又ハ輸入免狀ヲ受ケスシテ輸入シタル者ハ其貨物

ヲ沒收ス

第十一條 輸出入包貨内ニ禁制品ヲ藏匿シ又ハ輸出入申告書若ハ仕入書ニ記載セサル有税品ヲ藏匿シタルトキハ其包貨ヲ併セテ之ヲ沒收ス

旅其中ニ有税品ヲ藏匿シタルトキハ其物品ヲ沒收ス

本條ヲ以テ刑法ノ適用ヲ妨クルコトナシ

第十二條 沒收スヘキ貨物ニシテ既ニ之ヲ賣却シ又ハ消費シタルトキハ其代金ヲ追徴ス

第十三條 税關長ハ本法及税關規則執行上必要ト認ムルトキハ船舶ノ出港ヲ止メ又ハ税關監吏ニ令狀ヲ發シ輸出入貨物及運送ノ用ニ供スル物件ヲ差押ヘシムルコトヲ得

第十四條 税關監吏ハ入港ノ船舶ニ乗込ミ要件ヲ尋問シ船内ヲ検査シ又ハ

其船舶ニ臨監スルコトヲ得

船長ハ臨監ノ監吏ニ船室ヲ與ヘ相當ノ取扱ヲ爲スヘシ

第十五條 税關監吏ハ密輸入品アルヲ知り若ハ密輸入品アリト思料スルト

キハ家屋及其他ノ場所ニ立入り犯則ノ證憑搜查ノ處分ヲ爲スコトヲ得

前條及本條ノ場合ニ於テ税關監吏ハ主任タルノ證票ヲ携帯スヘシ

第十六條 税關長ハ本法及税關規則ヲ犯シタル者ニ對シ其罰金若ハ科料ニ

相當スル金額又ハ沒收スヘキ貨物及犯則取調ニ要シタル費用ヲ税關ニ納

ムヘキ旨ヲ申渡スコトヲ得

第十七條 前條ノ申渡ヲ受ケタル者ハ税關休日ヲ除キ二日内ニ其申渡ニ服從スルヤ否ノ届書ヲ差出スヘシ

申渡ニ服從スル旨ヲ届出タルトキハ貨物ハ即日金額八十日内ニ納ムヘシ

申渡ニ服從セサル旨ヲ届出若ハ第一項ノ期限内ニ届出ヲ爲サス又ハ金額貨物ヲ納メサルトキハ税關長ハ其犯則事件ヲ告發スヘシ

第十八條 税關長犯則事件ノ取調ヲ爲ストキハ犯人及證人關係人ヲ召喚スルコトヲ得

税關長ハ犯人及證人關係人召喚ニ應セス又ハ證人タルコトヲ拒ミ又ハ事實ノ申告ヲ爲サルニ因リ第十六條ノ申渡ヲ爲シ難キトキハ其犯則事件ヲ告發スヘシ

第十九條 税關長ノ處分スル犯則事件取調ノ費用ハ刑事裁判ノ例ニ依テ之ヲ算定ス

第二十條 本法及税關規則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第二十一條 本法ニ規定スル所ノ外外國通航船沿海通航船及輸出入貨物並

ニ減税免税假納税ニ關ル事項ハ税關規則ヲ以テ之ヲ規定ス

税關規則ニハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ノ罰則ヲ設クルコトヲ得

第二十二條 税關規則ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附則

明治三年正月二十七日布告商船規則中免許ナク外國へ通船ノ儀不相成云々ノ一項及同七年第百二十三號同八年第二十號同年第百六十三號同九年第百四十九號布告ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

朕小包郵便ヲ以テ外國へ輸出スル物品關稅免除ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

小包郵便ヲ以テ外國ニ輸出スル物品關稅免除

御名 御璽

明治二十三年九月十二日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋
大藏大臣 伯爵松方正義
逓信大臣 伯爵後藤象二郎

法律第八十二號

小包郵便ヲ以テ外國へ輸出スル物品ハ總テ關稅ヲ免除ス

朕命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年九月十八日

法律第八十四號

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋
内務大臣 伯爵西鄉從道
司法大臣 伯爵山田顯義
大藏大臣 伯爵松方正義
陸軍大臣 伯爵大山 巖
逓信大臣 伯爵後藤象二郎
外務大臣 子爵青木周藏
海軍大臣 子爵樺山資紀
文部大臣 芳川顯正
農商務大臣 陸奥宗光

命令ノ條項違犯ニ關スル罰則ノ件

命令ノ條項ニ違犯スル者ハ各其ノ命令ニ規定スル所ニ從ヒ二百圓以内ノ罰金若ハ一年以下ノ禁錮ニ處ス

朕府縣制郡制施行ニ際シ衆議院議員並府縣會議員ノ選舉區域地方稅收支豫算地方稅財產備荒儲蓄金處分方郡費支辨方法及府縣ノ急施事業ニ關スル諸件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年九月十九日

內閣總理大臣 伯爵山縣有朋

內務大臣 伯爵西鄉從道

法律第八十五號

第一條 郡制施行ニ付郡ノ廢置分合若ハ郡市ノ境界ヲ變更スルコトアルモ衆議院議員ノ選舉ハ仍ホ從前ノ區域ニ依ル

第二條 郡制施行ニ際シ郡ノ廢置分合若ハ郡市ノ境界ヲ變更スルコトアルモ府縣會議員ハ次回ノ定期改選ニ至ルマテ之ヲ改選セス又其ノ定數ヲ増減セス其ノ補缺選舉ヲ行フヘキトキハ仍ホ從前ノ區域ニ依ル

第三條 府縣制施行前府縣會ニ於テ議定シタル歲入出豫算中府縣制施行ニ至リ法律命令ノ結果ニ依リ異動ヲ生シ更正ヲ要スルモノアルトキハ新ニ組織スル府縣會ニ於テ之ヲ更正スヘシ其ノ他ハ總テ從前府縣會議決ノ効ヲ存ス

第四條 東京府京都府大阪府ヲ除キ其ノ他ノ縣ニ在テ從來郡市地方稅ノ經濟ヲ異ニシ其ノ地方稅經濟ニ屬スル財產ヲ郡市ニ分屬セルモノハ府縣制

施行ノ日ヨリ之ヲ共同ノ縣有財産トス

第五條 東京府京都府大阪府ヲ除キ其ノ他ノ縣ニ在テ從來備荒儲蓄金ヲ郡市ニ分別セルモノハ府縣制施行ノ日ヨリ之ヲ共同ノ備荒儲蓄金トス

第六條 郡制施行ノ後郡費ヲ收入スルニ至ルノ間必要ナル郡ノ支出ハ郡長ニ於テ概算ヲ設ケ府縣知事ノ認可ヲ得テ假ニ地方稅ヲ以テ支辨シ追テ郡費ヲ以テ償還スヘシ

第七條 府縣制郡制施行ノ後府縣參事會郡參事會就職ニ至ルマテノ間其ノ職務ニ屬スル事項ニシテ急施ヲ要スルモノアルトキハ府縣參事會ノ職務ハ府縣知事郡參事會ノ職務ハ郡長代テ之ヲ執行スヘシ

朕間接國稅犯則者處分法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年九月二十日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋
大藏大臣 伯爵松方正義
司法大臣 伯爵山田顯義

法律第八十六號

間接國稅犯則者處分法

第一章 犯則事件取調

第一條 間稅官吏間接國稅ニ關スル犯則者アルコトヲ認知シ若ハ思料シタルトキハ其家宅倉庫其他ノ場所ニ立入り證據集取ヲ爲スコトヲ得
犯則者他人ノ家屋倉庫其他ノ場所ニ犯則ニ係ル物件ヲ藏匿スト思料スル

トキハ間税官吏其場所ニ立入り證憑集取ヲ爲スコトヲ得

間税官吏證憑集取ヲ爲ストキハ間税官吏タルノ證票ヲ携帯スヘシ

第二條 前條ノ場合ニ於テ犯則者若ハ犯則ニ係ル物件其間税官署ノ管轄區

域外ニ在ルトキハ其地ノ間税官署ニ證憑集取ヲ囑托スルコトヲ得

第三條 間税官吏ハ犯則事件ノ搜查ニ關シ必要ナリト認ムルトキハ警察官

吏ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第四條 間税官吏證憑集取ヲ爲ストキハ本人若ハ其同居ノ親族又ハ傭人ヲ

シテ立會ハシムヘシ本人及同居ノ親族傭人俱ニ其家ニ在ラサルトキハ警

察官吏又ハ市町村吏員若ハ鄰佑二名以上ヲ立會ハシムヘシ

第五條 間税官吏家宅搜索及物件差押ヲ爲スハ日出ヨリ日没マテノ間ニ限

ルヘシ但現行犯ノ場合又ハ店舗ヲ公開シ商品ヲ店頭ニ展列シタル時間ニ

於テハ此限ニアラス

第六條 間税官吏臨檢ヲ爲スニ際シ犯則者及證人ノ陳述ヲ聽クコトヲ必要

トスルトキハ之ヲ尋問スルコトヲ得

第七條 間税官吏證憑集取ノ處分ヲ爲スニ由リ犯則物件ヲ發見シタルトキ

ハ之ヲ差押ヘテ封印若ハ認印ヲ爲シ差押目錄ヲ作り市町村吏員又ハ鄰佑

若ハ本人ニ之ヲ預ケ其預リ證ヲ徴スヘシ若シ之ヲ間税署若ハ間税分署ニ

送致シタルトキハ其領收證ヲ取置クヘシ

差押物件ヲ市町村吏員若ハ鄰佑ニ預ケ又ハ間税署若ハ間税分署ニ送致シ

タルトキハ其差押目錄ノ謄本ヲ本人ニ交付スヘシ

第八條 間税官吏ハ前數條ニ記載シタル處分中何人ニ限ラス其場所ニ出入

スルコトヲ禁スルヲ得

第九條 間稅官吏證憑集取ノ處分ヲ爲シタルトキハ自ラ其調書ヲ作り之ヲ本人ニ讀聞カセ本人ト共ニ署名捺印スヘシ本人署名捺印セス又ハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ其旨ヲ附記スヘシ

調書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 本人ノ氏名年齢身分職業住所
- 二 犯則事件發見ノ手續及日時場所
- 三 事實ノ尋問ヲ爲シタルトキハ其尋問及陳述
- 四 差押ヘタル證據物件及種類數量竝ニ本人ノ物件ニ對スル辯解

第二章 犯則者ノ處分

第十條 間稅官吏犯則事件ノ取調ヲ終リタルトキハ處分請求書ヲ作り一切ノ書類物件ト俱ニ之ヲ管轄間稅署長又ハ分署長ニ差出スヘシ

第十一條 間稅署長又ハ分署長ハ犯則事件ノ調書及其他ノ書類ヲ調査シ犯則ノ心證ヲ得タルトキハ其犯則ト認ムル理由ヲ明示シ罰金ニ該ル者ハ其罰金ニ相當スル金額沒收ニ該ル者ハ沒收スヘキ物品竝ニ第十六條ノ費用ヲ其署ニ納付スヘキ通告書ヲ作り之ヲ本人ニ送達スヘシ

前項ノ處分ハ罰金及沒收品ノ價額合計三十圓ヲ超エサルトキニ限り間稅分署長之ヲ爲シ其他ハ間稅署長之ヲ爲スモノトス

第十二條 犯則者前條ノ通告書ヲ受ケ通告ノ旨ヲ承諾スルトキハ七日内ニ履行スヘシ此期限ヲ過キ履行セサル者ハ間稅署長若ハ分署長ヨリ管轄裁判所ニ告發スヘシ

第十三條 犯則者通告ノ旨ヲ履行シタルトキハ同事件ニ付刑事又ハ民事ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 間稅官吏犯則事件ヲ覺知シタル場合ニ於テ本人ノ住所分明ナラ
ス若ハ犯則事件禁錮又ハ拘留ニ該ルモノト認ムルトキ又罰金若ハ税金ヲ
完納スルノ資力ナキ者ト認ムルトキハ該事件ヲ管轄裁判所ニ告發スヘシ
犯則者犯則物件ヲ遺留シテ逃走シタルトキハ間稅官吏其物件ヲ差押ヘテ
調書ヲ作り告發ノ手續ヲ爲スヘシ

第十五條 間稅官吏ハ左ノ場合ニ於テハ犯則者ヲ管轄裁判所ニ引致シ其事
件ヲ告發スヘシ

- 一 犯則者逃走ノ恐アルトキ
- 二 證憑埋滅ノ恐アルトキ

第三章 雜則

第十六條 書類送達費及差押物件ニシテ本人ニ還付スヘキモノ、運搬保管

若ハ保存ニ要スル費用ハ犯則者之ヲ負擔スヘシ

第十七條 間稅署長若ハ間稅分署長ハ差押物件腐敗其他損失ノ虞アルトキ
ハ本人ノ承諾ヲ得テ之ヲ公賣シ其代金ヲ供託スルコトヲ得
前項ノ場合ニ於テ其差押物件還付ノ申渡ヲ爲シタルトキハ其代金ヲ還付
スヘシ

第十八條 此法律ニ於テ間稅官吏トハ間接國稅ノ検査若ハ徵收ニ從事スル
官吏ヲ謂フ

第十九條 間稅官吏ハ直接ト間接トヲ間ハス沒收物件又ハ差押物件ヲ買受
クルコトヲ得ス

第二十條 此法律ハ明治二十四年一月一日ヨリ施行ス但北海道沖繩縣及東
京府管轄小笠原島伊豆七島ニハ當分ニ之ヲ施行セス

朕府縣稅徵收法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年九月三十日

內閣總理大臣 伯爵山縣有朋

內務大臣 伯爵西鄉從道

大藏大臣 伯爵松方正義

法律第八十八號

府縣稅徵收法

第一條 市町村ハ其市町村內ノ府縣稅ヲ徵收シ之ヲ府縣ニ納付スルノ義務アルモノトス

地租割外ノ府縣稅ニ對シテハ其徵收金額ノ百分ノ四ヲ徵收費用トシテ其

市町村ニ交付スヘシ但東京市京都市大阪市ハ此限ニ在ラス

第二條 市町村ハ過誤怠慢ニ依リ其徵收金ヲ亡失シタルトキハ之ヲ辨償スルノ責ニ任スヘシ

第三條 市町村ハ避クヘカラサル變災ニ罹リ其徵收金ヲ亡失シタルトキハ其責任免除ヲ府縣知事ニ訴願スルコトヲ得

第四條 府縣知事ハ前條ノ訴願ヲ受ルトキハ府縣參事會ノ議決ヲ經テ責任ヲ免除スルコトヲ得

第五條 府縣稅ヲ徵收スルトキハ府縣知事又ハ其委任ヲ受ケタル命令者ハ市町村ニ對シ徵稅令書ヲ發シ市町村長ハ徵稅令書ニ依リ徵稅傳令書ヲ調製シ之ヲ各納稅人ニ交付スルモノトス

第六條 市長ニ於テ收入命令ノ委任ヲ受ケタル場合ニ於テハ徵稅令書ヲ直チニ各納稅人ニ交付スルコトヲ得

第七條 隨時徵收ノ府縣稅ハ府縣知事又ハ委任ヲ受ケタル命令者ニ於テ直チニ各納稅人ニ徵稅令書ヲ發スルコトヲ得

第八條 徵稅傳令書ヲ受ケタル各納稅人及徵稅令書ヲ受ケタル市ノ各納稅人ハ稅金ヲ市町村ノ收入役ニ拂込ミ其領收證書ニ市町村長ノ檢印ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ルモノトス

市町村ハ其徵收シタル稅金ヲ府縣出納吏ニ納付シ其領收證書ヲ得テ義務ヲ了ルモノトス

第七條ニ依ル各納稅人ハ稅金ヲ府縣出納吏ニ納付シ其領收證書ヲ得テ納稅ノ義務ヲ了ルモノトス

第九條 納稅人他ノ負債ニ依リ身代限ノ處分ヲ受クルトキ其既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ國稅徵收法第十四條第十五條ノ例ニ依リ國稅ニ次テ府縣稅ヲ徵收スヘシ

第十條 國稅若クハ市町村稅ヲ滯納シタル爲メ滯納者ノ財産ヲ賣却シタル場合ニ於テ既ニ徵稅令書ヲ發シタルモノアルトキハ市町村稅ニ先タテ府縣稅ヲ徵收スヘシ

第十一條 府縣稅納稅義務ノ期滿免除ハ國稅ノ例ニ依ル

第十二條 町村制ヲ施行セサル地方ニ於テハ此法律ニ依リ町村ノ爲スヘキ職務ハ戸長ニ於テ之ヲ行フヘシ

第十三條 此法律ニ關スル細則ハ府縣會ノ決議ヲ經テ府縣知事之ヲ定ムヘシ

第十四條 府縣制施行ニ至ル迄ノ間ハ此法律ハ地方税ノ徵收ニ適用ス
第十五條 此法律ハ明治二十四年度所屬ノ徵税ヨリ之ヲ施行ス

朕訴願法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年十月九日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋
内務大臣 伯爵西郷從道
司法大臣 伯爵山田顯義
大藏大臣 伯爵松方正義
陸軍大臣 伯爵大山 巖

遞信大臣 伯爵後藤象二郎
外務大臣 子爵青木周藏
海軍大臣 子爵樺山資紀
文部大臣 芳川顯正
農商務大臣 陸奥宗光

法律第百五號

訴願法

第一條 訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付之ヲ提起スルコトヲ得

- 一 租税及手数料ノ賦課ニ關スル事件
- 二 租税滞納處分ニ關スル事件

- 三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
 - 四 水利及土木ニ關スル事件
 - 五 土地ノ官民有區分ニ關スル事件
 - 六 地方警察ニ關スル事件
- 其他法律勅令ニ於テ特ニ訴願ヲ許シタル事件
- 第二條 訴願セントスル者ハ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シ直接上級行政廳ニ之ヲ提起スヘシ
- 訴願ノ裁決ヲ受ケタル後更ニ上級行政廳ニ訴願スルトキハ其裁決ヲ爲シタル行政廳ヲ經由スヘシ
- 國ノ行政ニ付此法律ニ依リ郡參事會又ハ市參事會ノ處分若クハ裁決ニ對シテ訴願セントスル者ハ其處分若クハ裁決ヲ爲シタル郡參事會又ハ市參

- 事會ヲ經由シテ府縣參事會ニ之ヲ提起スヘシ
- 第三條 各省大臣ノ處分ニ對シ訴願セントスル者ハ其省ニ之ヲ提起スヘシ
- 第四條 裁判所ノ裁判各省ノ裁決及第二條第三項府縣參事會ノ裁決ヲ經タルモノハ其事件ニ付更ニ訴願スルコトヲ得ス
- 第五條 訴願ハ文書ヲ以テ之ヲ提起スヘシ
- 訴願書ノ侮辱誹毀ニ涉ルモノハ之ヲ受理セス
- 第六條 訴願書ハ其不服ノ要點理由要求及訴願人ノ身分職業住所年齡ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ
- 訴願書ニハ證據書類ヲ添ヘ竝下級行政廳ノ裁決ヲ經タルモノハ其裁決書ヲ添フヘシ
- 第七條 多數ノ人員共同シテ訴願セントスルトキハ其訴願書ニ各訴願人ノ

身分職業住所年齢ヲ記載シ署名捺印シ其中ヨリ三名以下ノ總代人ヲ選ヒ之ニ委任シ總代委任ノ正當ナルコトヲ證明スヘシ

法律ニ依リ法人ト認メラレタル者ハ其名ヲ以テ訴願ヲ提起スルコトヲ得

第八條 行政處分ヲ受ケタル後六十日ヲ經過シタルトキハ其處分ニ對シ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ノ裁決ヲ經タル訴願ニシテ其裁決ヲ受ケタル後三十日ヲ經過シタルモノハ更ニ上級行政廳ニ訴願スルコトヲ得ス

行政廳ニ於テ宥恕スヘキ事由アリト認ムルトキハ期限經過後ニ於テモ仍之ヲ受理スルコトヲ得

第九條 法律勅令ニ依リ訴願ヲ提起スヘカラサルモノナルカ又ハ適法ノ手續ニ違背スルモノナルトキハ之ヲ却下ス

其訴願書ノ方式ヲ缺クニ止マルモノハ期限ヲ指定シテ還付スヘシ

第十條 訴願書ハ郵便ヲ以テ之ヲ差出スコトヲ得

郵便遞送ノ日數ハ第八條ノ訴願期限内ニ之ヲ算入セス

第十一條 第二條第一項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ十日以内ニ辯明書及必要文書ヲ添へ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第二條第二項ノ場合ニ於テ訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタル日ヨリ三日以内ニ上級行政廳ニ之ヲ發送スヘシ

第二條第三項ノ場合ニ於テ訴願書ヲ發送スルトキ亦前二項ノ例ニ依ルヘシ

第十二條 訴願ハ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外行政處分ノ執行

ヲ停止セス但行政廳ハ其職權ニ依リ又ハ訴願人ノ願ニ依リ必要ナリト認
ムルトキハ其執行ヲ停止スルコトヲ得

第十三條 訴願ハ口頭審問ヲ爲サス其文書ニ就キ之ヲ裁決ス但行政廳ニ於
テ必要ナリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ得

第十四條 訴願ノ裁決ハ文書ヲ以テ之ヲ爲シ其理由ヲ付スヘシ訴願ヲ却下
スルトキ亦同シ

第十五條 訴願ノ裁決書ハ其處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ之ヲ訴願人
ニ交付スヘシ訴願書ヲ却下スルトキ亦同シ

第十六條 上級行政廳ニ於テ爲シタル裁決ハ下級行政廳ヲ羈束ス

第十七條 訴願ノ手續ニ關シ他ノ法律勅令ニ別段ノ規程アルモノハ各其規
程ニ依ル

附則

第十八條 明治十五年^{十二}月^{十二}日第五十八號布告請願規則ハ此法律施行ノ日ヨリ
廢止ス

第十九條 此法律施行ノ前請願規則ニ依リ受理シタル請願ハ仍其規則ニ依
リ之ヲ處分ス

請願規則ニ依リ下級行政廳ノ指令ヲ受ケタル者訴願スルヲ得ヘキ場合ニ
於テ更ニ訴願セントスルトキハ此法律ニ從ヒ其上級行政廳ニ之ヲ提起ス
ヘシ

第二十條 第八條ノ訴願期限ハ此法律施行ノ前行政處分ヲ受ケ又ハ請願規
則ニ依リ指令ヲ受ケタル事件ニシテ其處分又ハ指令ヲ受ケタル日ヨリ滿
五年ヲ經過セサルモノニ對シテハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第二十一條 行政廳ニ呈出スル請願ハ此法律ニ依ルノ限ニ在ラス

朕行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年十月九日

- 內閣總理大臣 伯爵山縣有朋
- 內務大臣 伯爵西鄉從道
- 司法大臣 伯爵山田顯義
- 大藏大臣 伯爵松方正義
- 陸軍大臣 伯爵大山 巖
- 遞信大臣 伯爵後藤象二郎

- 外務大臣 子爵青木周藏
- 海軍大臣 子爵樺山資紀
- 文部大臣 芳川顯正
- 農商務大臣 陸奥宗光

法律第百六號

法律勅令ニ別段ノ規程アルモノヲ除ク外左ニ掲クル事件ニ付行政廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ毀損セラレタリトスル者ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得

- 一 海關稅ヲ除ク外租稅及手数料ノ賦課ニ關スル事件
- 二 租稅滯納處分ニ關スル事件
- 三 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件

行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ノ件

- 四 水利及土木ニ關スル事件
- 五 土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル事件

勅令

朕官吏遺族扶助法納金收入規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月十二日

大藏大臣 伯爵松方正義

勅令第二百二十五號

官吏遺族扶助法納金收入規則

第一條 本年法律第四十四號官吏遺族扶助法第二條ニ依リ文官判任以上ノ者ヨリ國庫ニ納ムヘキ金員ハ俸給仕拂ノトキ金庫ニ於テ之ヲ差引ヘシ但現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ俸給ノ仕拂ヲナストキハ該官吏ニ於テ之ヲ差引ヘシ

官吏遺族扶助法納金收入規則

第二條 前條ニ依リ金庫ニ於テ差引シタル金員ハ收入官吏ヨリ金庫ヘノ拂込ニ移シテ計算シ直ニ報告書ヲ作り之ヲ收入官吏ニ送付スヘシ

前條ニ依リ現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ差引シタル金員ハ納金額表ヲ添ヘ之ヲ收入官吏ニ送付スヘシ

第三條 俸給ノ増減ニ依リ既納ノ金員ニ過不足ヲ生スルトキハ次期ノ俸給支給ノトキ之ヲ整理スヘシ

免官退官轉任死亡ニ依リ過渡俸給ノ返納ヲ要スルトキハ其百分ノ一ヲ納人ニ於テ差引スヘシ

朕明治二十三年度歳出豫算中第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月十六日

大藏大臣 伯爵松方正義

勅令第三百三十二號

明治二十三年度歳出豫算中第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途左ノ通之ヲ定ム

大藏省證券利子及手数料

外國債元利及手数料爲替差増

整理公債ヲ以テ償還サレタル金庫公債ノ利子及手数料

文 官 恩 給

陸 軍 恩 給

廿三年度歳出豫算中第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ノ件

海軍恩給
飯米

外國貨幣ヲ以テ支給スル俸給旅費及定額
アル手當並在外公館經費ノ金銀貨幣差増

官報局工場費及雜給

死亡賜金

訴訟入費

恩賞及救助費

違犯密告手當

褒賞費

裁判及囚徒費

印紙製造費

看守給助
看守滿年賜金
囚徒費
在府縣獄囚徒費
巡查給助
巡查滿年賜金
養育費
徵兵費
內外國難破船費
海員取扱費
救育費

廿三年度歳出豫算中第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ノ件

警察費連帶支辨金
 證券印紙類製造買戻切手押印費
 從價稅品買上代
 鑑札招牌製造費
 諸拂戻及缺損補填金
 糧米
 莠稂蕞類
 埋葬料
 刑事裁判費
 切手類製造買戻及取扱費
 爲替貯金受拂費

萬國郵便及電信聯約中央局維持費
 市町村交付金
 差押物件買上代
 滯納處分費
 阿片費
 議員歲費及旅費
 所得稅調查委員手當
 死傷手当當
 海外電信支拂金
 受繼電信料
 日本鐵道會社利益補助

廿三年度歲出豫算中第一豫備金ヲ以テ補充シ得ヘキ費途ノ件

北海道製麻會社補助
 北海道紋織製糖會社補助
 北海道札幌製糖會社補助
 北海道炭礦鐵道會社補助
 北海道興産社補助
 北海道興産社補助
 北海道北越殖民社補助
 拂下土地買上代
 賠償金

朕商業及上船舶ノ登記ニ關スル件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月十六日

司法大臣 伯爵山田顯義
 大藏大臣 伯爵松方正義

勅令第三百三十三號

第一條 商業ノ登記公告ノ手数料左ノ如シ

第一 商號、後見人、未成年者、婚姻契約及ヒ代務ノ登記公告ハ本店ト支店トニ拘ハラズ各金三十拾錢

其變更又ハ追加ノ登記公告ニ付テモ亦同シ

第二 會社ノ登記公告ハ本店ト支店トニ拘ハラズ合名會社ニ付テハ金六圓合資會社株式會社ニ付テハ各金拾圓

商業及ヒ船舶ノ登記ニ關スル件

其變更又ハ追加ノ登記公告ハ每一件ニ付金三拾錢

第三 登記簿ノ閱覽ニ付テハ金拾錢

第四 登記簿ノ謄本ハ用紙壹枚ニ付金拾錢但一行二十字二十行ヲ以テ壹枚トシ十一行以上ハ壹枚十行以下ハ半枚トス

第二條 商法第八百二十五條ノ登記ニ付テハ金三圓ヲ納ムヘシ

商法第八百二十九條ニ定メタル變更ノ附記ニ付テハ金拾五錢ヲ納ムヘシ

第三條 手数料ハ登記印紙ヲ以テ納ムヘシ(廿三年勅令第二百七號ヲ以追加)

朕官有地特別處分規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十一日

内務大臣 伯爵西郷從道

勅令第三百三十五號

官有地特別處分規則

第一條 内務大臣ハ左ノ場合ニ限り官有地ヲ競争ニ付セス隨意ノ契約ヲ以テ貸渡又ハ賣渡スコトヲ得

一 直接公用ニ供スル爲又ハ公共ノ利益トナル事業ノ爲府縣郡市町村及公共組合又ハ其他ノ起業者ニ官有地ヲ貸渡又ハ賣渡ストキ

二 不用ニ屬スル官有地一箇所ノ坪數百五十坪ニ滿タス其評定價格二百圓以内ノモノヲ賣渡又ハ其貸渡料一箇年五圓以内ニシテ貸渡期限五箇年以内ノモノヲ貸渡ストキ但望人二名以上アルトキハ此限ニアラス

官有地特別處分規則

三 鑛山ニ於ケル鑛物運搬道路、冷温泉場ニ於ケル汲泉場又ハ導泉敷地ノ如キ官許ヲ與ヘタル主タル事業ニ直接附隨シ必要缺クヘカラスト認メタル官有地ヲ其事業者ニ貸渡又ハ賣渡ストキ

四 會計法施行以前土地ノ形質ヲ變更シ又ハ建物ヲ建設スルカ爲貸渡シタル官有地ヲ其借地人ニ賣渡シ又ハ引續キ貸渡ストキ

第二條 直接公用ニ供スル官有地ヲ特ニ府縣郡市町村又ハ公共組合ノ直接公用ニ供スルトキハ借地料ヲ徵收セサルモノトス

第三條 府縣郡市町村又ハ公共組合ニシテ直接公用ニ供スル官有地ノ修理保存費ヲ負擔スルモノハ其直接公用ヲ廢スルトキ官有財産管理上必要ノモノヲ除ク外之ヲ其費用負擔者ニ無代下付ス府縣郡市町村又ハ公共組合ニ於テ其土地ヲ賣拂ハントスルトキハ隣接地主ハ先買ノ權ヲ有スルモノ

トス

第四條 北海道官有未開ノ土地竝官有森林原野ニハ本令ヲ適用セス

朕供託規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十五日

内閣總理大臣 伯爵山縣有朋

大藏大臣 伯爵松方正義

勅令第四百十五號

供託規則

第一條 法律ノ規定ニ依リ供託スル所ノ金錢有價證券ハ總テ大藏省預金局

ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第二條 供託シタル金錢ハ拂込ノ日ヨリ六十日ヲ過ルトキハ拂込ノ翌月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ通常預金ノ利子ヲ付スヘシ

第三條 供託ヲ爲サントスルトキハ大藏大臣定ムル所ノ式ニ依リ供託書ヲ製シテ供託物ニ添ヘ其申込ヲ爲スヘシ

第四條 供託者ハ民法財産編第四百七十七條債權擔保編第二百六十八條及商法第七百四十條ノ場合ニ於テハ其供託シタル旨ヲ債權者ニ通知スヘシ

第五條 供託物ハ供託者ノ指定シタル者ニ拂渡シ又ハ裁判所ノ通知ニ依リ拂渡スヘキモノトス但供託者ニ於テモ其受領スヘキ理由アルコトヲ證明シ返戻ヲ請求スルコトヲ得

第六條 有價證券ノ償還金利子又ハ配當金ヲ受取ントスルトキハ有權者ヨ

リ大藏省預金局ニ請求スヘシ此請求ナキトキハ政府ハ損害ノ責ニ任セサルヘシ

第七條 前條ノ請求ニ依リ大藏省預金局ニ於テ受取リタル償還金利子又ハ配當金ハ代供託物又ハ附屬供託物トシテ之ヲ保管スヘシ

朕艦船ノ乗員俸給前渡及糧食料前渡ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年七月二十八日

海軍大臣 子爵樺山資紀

勅令第百五十號

艦船ノ乗員三箇月以上ノ航海ヲ爲ストキハ出航ノ際翌月マテノ俸給ヲ前金

艦船ノ乗員俸給糧食料前渡ノ件

渡スルコトヲ得

海軍糧食條例第七條ニ依リ糧食ニ代ヘ給スル現金ハ航海ニ際シテハ其見積
リ日數以內其他ノ場合ニ於テハ一箇月以內ニ於テ前金渡スルコトヲ得

朕政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ
公布セシム

御名 御璽

明治二十三年九月一日

大藏大臣 伯爵松方正義

勅令第九十三號

政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニシテ競争ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ

會計規則第七十七條ニ依リ再度ノ入札ニ付スルモ尙ホ豫定價格ノ制限ニ達
セサルトキハ隨意契約ヲナスコトヲ得但之カ爲メ最初競争ニ付スルトキ定
メタル價格及其他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

朕稅關規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム本規則ハ明治二十三年十一月一日
ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年九月六日

大藏大臣 伯爵松方正義

勅令第二百三號

稅關規則

政府ノ工事又ハ物件ノ賣買貸借ニ關スル隨意契約ノ件 稅關規則

第一章 外國通航船及輸出入貨物

第一條 外國通航船入港シタルトキハ其船長ハ入港ノ時ヨリ四十八時内ニ入港届書及積荷目録ヲ税關ニ差出ト同時ニ船籍證書船舶登記證書船鑑札及仕出港ノ出港免狀若ハ之ニ代ルヘキ證憑書類ヲ税關ニ預ケ入港手数料十五圓ヲ納ムヘシ但貨物ヲ積卸セスシテ入港ノ時ヨリ四十八時内ニ出港スル者ハ此手数料ヲ爲スニ及ハス

第二條 積荷目録ニ遺漏若ハ相違ノ事項アルトキハ入港手数料了リタル時ヨリ二十四時内ハ税關ノ認許ヲ得之ヲ訂正スルコトヲ得
前項ノ時限ヲ經過シタル後積荷目録ヲ訂正セントスルトキハ手数料十五圓ヲ納ムヘシ

第三條 外國通航船出港セントスルトキハ其船長ハ出港ノ時ヨリ二十四時

前ニ出港届書ヲ税關ニ差出シ出港手数料七圓ヲ納メ第一條ニ依リ税關ニ預ケタル船籍證書船舶登記證書船鑑札及證憑書類ヲ受戻シ出港免狀ヲ受クヘシ

第四條 外國通航船出港手数料了リタル後尙ホ貨物ヲ船積シ若ハ陸揚セントスルトキハ更ニ第一條ノ手数料ヲ爲シ其手数料ヲ納メ其出港ノ時モ亦第三條ノ手数料ヲ爲シ其手数料ヲ納ムヘシ但税關手数料既濟ノ貨物ヲ船積シ若ハ陸揚スル者ハ此ノ限ニアラス

第五條 郵船ハ同時ニ入港及出港ノ手数料ヲ爲スコトヲ得

第六條 郵船ハ其港ニ陸揚スル貨物ノ外ハ積荷目録ニ記載スルコトヲ要セス

第七條 郵船ハ出港手数料了リタル後ト雖第四條ノ手数料ヲ爲サスシテ貨物

ヲ船積シ若ハ陸揚スルコトヲ得

第八條 外國通航船航海中避難ノ爲メ已ムヲ得スシテ入港シタルトキハ入港ノ時ヨリ四十八時内ニ其事由ヲ税關ニ申出認許ヲ受クヘシ

前項ノ船舶修繕其他已ムヲ得サル事故ニ由リ假ニ其積荷ヲ陸揚シ又ハ損傷ノ貨物ヲ賣拂ヒ若ハ船中必需ノ物品ヲ積入ル場合ニ於テハ入出港手數ヲ爲スヲ要セス其他ノ貨物ヲ陸揚シ船積シ船移シ若ハ假ニ陸揚シタル貨物ヲ賣拂ハントスルトキハ第一條ノ手數ヲ爲シ其手數料ヲ納メ其出港ノ時モ亦第三條ノ手數ヲ爲シ其手數料ヲ納ムヘシ

第九條 外國通航船ハ日没ヨリ日出マテノ間及税關ノ休日ニハ税關長ノ特許ヲ受クルニ非サレハ貨物ヲ陸揚シ船積シ若ハ船移スルコトヲ得ス前項ノ日時間ハ艙口其他貨物ヲ納ルヘキ場所ハ税關監吏之ヲ封鎖スヘシ

第十條 外國通航船避難ノ爲メ已ムヲ得スシテ不開港ニ入港シタルトキハ船長ハ其事由ヲ記シタル書面ヲ其地ノ町村役場若ハ浦役場ニ差出スヘシ若シ船中需用品ヲ積入ル、トキハ別ニ其目錄ヲ差出シ各其證明ヲ受ケ他日開港ニ入港シタルトキ之ヲ税關ニ差出スヘシ

第十一條 船舶ヲ外國通航船ト爲シ及外國通航船ヲ沿海通航船ト爲サントスルトキハ船主ヨリ税關ニ申出船中ノ検査ヲ經免狀ヲ受クヘシ

第十二條 輸出貨物ヲ船積セントスル者ハ其申告書ヲ税關ニ差出シ現品ノ検査ヲ經輸出税目ニ從ヒ納税シ船積免狀ヲ受クヘシ

第十三條 輸入手數既済ノ外國產貨物ヲ外國ニ積戻サントスル者ハ輸出税ヲ納ムルニ及ハス但書面ヲ以テ其旨ヲ税關ニ申出検査ヲ經船積免狀ヲ受クヘシ

第十四條 船中ノ需用品ニ付キテハ輸出税ヲ納ムルニ及ハス但船長ハ前條ノ手數ヲ爲スヘシ

第十五條 輸入貨物ヲ陸揚セントスル者ハ其申告書ニ仕入書ヲ添ヘ之ヲ税關ニ差出シ陸揚免狀ヲ受ケ其貨物ヲ陸揚シ現品ノ検査ヲ經輸入税目ニ從ヒ納税シ輸入免狀ヲ受ケテ之ヲ引取ヘシ

前項ノ仕入書ハ貨物ノ輸入手數濟ノ上其貨主ニ返付スヘシ

第十六條 内國産ノ貨物ヲ外國ヨリ積戻リ左ノ事項ヲ具備スルトキハ輸入税ヲ納ムルニ及ハス但前條ノ手數ヲ爲スヘシ

- 一 輸出ノ時ノ性質若ハ形狀ヲ變セサルコト
- 二 輸出ノ日ヨリ滿五箇年ヲ經過セサルコト
- 三 輸出免狀ヲ付スルコト

第十七條 無税品ヲ除クノ外仕入書ヲ付セサル貨物ハ輸入ヲ許サス但税關長其仕入書ヲ差出シ能ハサル理由アリト認メ該貨主税關官吏ノ査定セル數量、尺度若ハ價額ニ從ヒ納税スルモノハ此ノ限ニアラス

第十八條 價ニ從ヒ徵税スヘキ貨物ニシテ其原價ヲ税關ニ於テ不相當ト認ムルトキハ税關鑑定官吏ヲシテ其價ヲ査定セシメ其査定額ニ從ヒ納税セシムヘシ

若シ貨主前項ノ査定額ニ從ヒ納税スルコトヲ欲セサルトキハ該査定額ヲ以テ税關ニ其貨物ノ買上ヲ請フコトヲ得但第十七條ノ場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第十九條 外國通航船貨物ヲ他ノ船舶ニ若ハ他ノ船舶ヨリ積移サントスルトキハ書面ヲ以テ其旨ヲ税關ニ申出船移免狀ヲ受クヘシ但郵船ニ積載シ

タル貨物ヲ其會社所屬ノ庫船若ハ艘舟ニ積移スニハ免狀ヲ受クルニ及ハス

第二十條 有税ノ貨物損傷シタルカ爲メニ減税ヲ請ハントスル者ハ現品ノ検査ヲ受クル前其旨ヲ税關長ニ申出ヘシ税關長ハ税關鑑定官吏ヲシテ現品損傷ノ程度ヲ査定セシメ相當ノ減税ヲ爲スヘシ

第二十一條 外國軍艦ノ備用品ヲ買受クルトキハ賣主ノ證明書ヲ受ケ書面ヲ以テ其旨ヲ税關ニ申出相當ノ輸入税ヲ納ムヘシ

第二十二條 内國産金銀地金ハ政府ニ於テ公賣シタルモノヲ除クノ外ハ輸出スルコトヲ得ス

第二十三條 船客ノ旅具ハ陸揚船積共書面ヲ以テ其旨ヲ申出ルニ及ハス但通關前ニ税關監吏ノ検査ヲ受クヘシ

税關ニ於テ旅具ト認メサルモノハ相當ノ税金ヲ納メシムヘシ

第二十四條 第八條ノ船舶修繕其他已ムヲ得サル事故ニ由リ一時貨物ヲ陸揚スルトキハ之ヲ税關ニ預クヘシ

前項ノ貨物ヲ陸揚シ及之ヲ本船ニ積戻スニハ輸入出ノ手數ヲ爲スニ及ハス但其貨物ノ保管ニ要スル諸費ハ船長ヨリ之ヲ税關ニ納ムヘシ

第一項ノ貨物ヲ賣拂ハントスルトキハ第十五條ノ手數ヲ爲シ其税金ヲ納ムヘシ

第二十五條 外國通航船若ハ外國船ヲ以テ貨物ヲ開港間ニ回漕セントスル者ハ書面ヲ以テ其旨ヲ税關ニ申出現品ノ検査ヲ經回漕免狀ヲ受ケテ之ヲ船積スヘシ

第二十六條 前條ノ貨物若シ有税内國産ナルトキハ相當ノ税金ヲ假納スル

カ若ハ税關長ノ満足スヘキ證書ヲ差入レ置キ回漕免狀付與ノ日ヨリ滿六箇月以内ニ仕向港税關ノ陸揚證書ヲ差出シ其假納税金若ハ前ニ差入レ置キタル證書ヲ受戻スヘシ

前項ノ期限内ニ仕向港税關ノ陸揚證書ヲ差出サ、ルニ於テハ輸出シタルモノト看做シ其税金ヲ納メシムヘシ

第二十七條 第二十五條ノ貨物若シ輸出禁制品ナルトキハ回漕免狀付與ノ日ヨリ滿六箇月以内ニ仕向港税關ノ陸揚證書ヲ差出スヘシ

第二十八條 第二十六條及第二十七條ノ貨物ヲ積載シタル船舶航海中破船其他ノ事故ニ由リ貨物ヲ仕向港ニ回漕シ能ハサルトキハ其事由ヲ仕出港税關ニ届出該船出港ノ日ヨリ滿一箇年以内ニ其證據ヲ舉示シ假納税若ハ前ニ差入レ置キタル證書ヲ受戻スコトヲ得

第二十九條 第二十五條ノ回漕貨物ヲ仕向港ニ於テ陸揚セントスル者ハ書面ヲ以テ其仕向港ノ税關ニ申出仕出港税關ヨリ受ケタル回漕免狀ニ陸揚ノ證明ヲ受ケ現品ノ検査ヲ經テ之ヲ引取ヘシ

前項回漕免狀ノ紛失若ハ遺忘ニ因リ之ヲ仕向港税關ニ差出シ難キトキハ税關長ノ満足スヘキ證書ヲ差入レ置キ其證書ノ日附ヨリ滿四箇月以内ニ回漕免狀若ハ之ニ代ルヘキ仕出港税關ノ證明書ヲ差出シ前ニ差入レ置キタル證書ヲ受戻スヘシ

第三十條 外國通航船修繕ノ爲メ開港ヨリ不開港ニ回船セントスルトキ又ハ重量ノ貨物ニシテ開港ニ於テ積卸ヲ爲シ難ク不開港ニ回船セントスルトキハ書面ヲ以テ其旨ヲ申出税關長ノ特許ヲ受クヘシ

第二章 沿海通航船及輸入手數未濟貨物回漕

第三十一條 沿海通航船入港シタルトキハ船長ハ入港ノ時ヨリ二十四時内ニ入港届書ヲ税關ニ差出シ同時ニ船籍證書、船舶登記證書及船鑑札ヲ預クヘシ

第三十二條 沿海通航船出港セントスルトキハ其船長ハ出港ノ時ヨリ四時前ニ出港届書ヲ税關ニ差出シ船籍證書、船舶登記證書及船鑑札ヲ受戻スヘシ
第三十三條 船籍證書、船舶登記證書ノ受有ヲ要セサル諸船及一定ノ港津間ニ往復スル積量百噸以下ノ西洋形船舶ハ船主ヨリ豫テ税關ニ届出認許ヲ受クルニ於テハ第三十一條及第三十二條ノ手數ヲ爲スニ及ハス

第三十四條 沿海通航船輸入手數未済ノ貨物ヲ積載シテ出港セントスルトキハ其船長ハ第三十二條ノ手數ヲ爲スト同時ニ出港積荷目錄ニ通テ税關ニ差出スヘシ

第三十五條 前條ノ船舶仕向港ニ入港シタルトキハ其船長ハ第三十一條ノ手數ヲ爲スト同時ニ入港積荷目錄ヲ税關ニ差出スヘシ

第三十六條 沿海通航船ヲ以テ輸入手數未済ノ貨物ヲ開港間ニ回漕セントスル者ハ書面ヲ以テ其旨ヲ税關ニ申出船積免狀ヲ受クヘシ

前項ノ貨物ヲ陸揚セントスル者ハ第十五條ニ又船移セントスル者ハ第九條ニ據ルヘシ

第三章 罰則

第三十七條 外國通航船第一條ノ時限内ニ入港手數ヲ爲サルトキハ船長ヲ六十圓ノ罰金ニ處シ尙ホ其手數ヲ爲サルニ於テハ初犯ノ時ヨリ二十四時ヲ過ル毎ニ更ニ同額ノ罰金ニ處ス

第三十八條 第九條第二項ニ掲クル税關監吏ノ爲シタル封鎖ヲ破却シ若ハ

之ヲ取除キタルトキハ船長ヲ六十圓ノ罰金ニ處ス

第三十九條 第十九條及第三十六條第二項ノ船移免狀ヲ受ケスシテ船移シタル者ハ前條同額ノ罰金ニ處ス

第四十條 外國通航船第八條第一項ノ場合ニ於テ規定ノ時限内ニ入港ノ事由ヲ申出サルトキハ船長ヲ十五圓ノ罰金ニ處ス

第四十一條 外國通航船第十條ノ場合ニ於テ町村役場若ハ浦役場ノ證明ヲ受ケス又ハ證明ヲ受クルト雖之ヲ税關ニ差出サ、ルトキハ船長ヲ十五圓ノ罰金ニ處ス

第四十二條 沿海通航船第三十一條ノ時限内ニ入港ノ手數ヲ爲サス又ハ第三十二條ノ時限前ニ出港ノ手數ヲ爲サ、ルトキハ船長ヲ五圓ノ罰金ニ處ス

第四章 雜則

第四十三條 輸出入貨物ノ類別ニ就キ税關鑑定官吏ノ査定ニ不服アル者ハ其査定ノ日ヨリ十日以内ニ税關長ニ申告シ判定ヲ請フコトヲ得

税關長ノ判定ニ不服アル者ハ判定ノ日ヨリ三十日以内ニ判定書ヲ添ヘ大藏大臣ニ裁定ヲ請フコトヲ得

第四十四條 税關官吏ハ必要ノ場合ニハ輸出入貨物ノ小部分ヲ見本トシテ税關ニ留置シコトヲ得

第四十五條 此ノ規則ニ依リ税關ニ差出スヘキ書面ハ總テ税關一定ノ書式ヲ用ヒ船主、船長若ハ貨主之ニ署名捺印スヘシ

第四十六條 税關ヨリ交付スル諸免狀ノ謄本其他別段ノ證書ヲ請フ者ハ一通毎ニ一圓五十錢ノ手數料ヲ納ムヘシ

第四十七條 此ノ規則ニ於テ日時ヲ以テ期限ヲ設ケタルモノハ其期限中ニ
税關ノ休日ヲ算入セス又年月ヲ以テ期限ヲ設ケタルモノハ休日ヲ算入ス

第四十八條 税關ノ執務時間ハ休日ヲ除キ午前十時ヨリ午後四時マテトス
但臨時開廳ヲ請フ者ハ税關長ノ特許ヲ受クヘシ

第四十九條 第九條第一項及第四十八條但書ノ場合ニ於テ特許ヲ請フ者ハ
定規ノ手数料ヲ納ムヘシ但其手数料ハ大藏大臣之ヲ定ム

第五十條 此ノ規則ニ於テ船主ト稱スルハ其船ノ所有主若ハ現ニ其船ノ使
用權ヲ有スル者ヲ云ヒ船長ト稱スルハ現ニ其船ヲ管理シ若ハ指揮スル者
ヲ云ヒ貨主ト稱スルハ貨物ノ所有主若ハ其受託人ヲ云フ

第五十一條 此ノ規則ニ於テ輸出ト稱スルハ貨物ヲ外國へ輸出スルヲ云ヒ
輸入ト稱スルハ貨物ヲ外國ヨリ輸入スルヲ云ヒ貨物ト稱スルハ旅具及船

用品ヲ除クノ外一切ノ物件ヲ云フ

第五十二條 此ノ規則ニ於テ入港ノ時ト稱スルハ船舶ノ投錨若ハ繫留セシ
トキヲ云ヒ出港ノ時ト稱スルハ拔錨若ハ解纜ノトキヲ云フ

第五十三條 密輸出入ヲ税關ニ申告スル者ニハ其沒收セシ貨物代價ノ半額
ヲ給ス

附 則

第五十四條 露西亞國樺太島貿易ニ從事スル船舶ニ限り當分ノ内出入港手
數料及該船ニ搭載スル貨物ノ輸出入税ヲ免除ス但船舶ノ出入港手數ニ限
リ第三十一條第三十二條ヲ適用ス

朕税關管轄區域ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム本令ハ明治二十三年十一

月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

明治二十三年九月六日

大藏大臣 伯爵松方正義

勅令第二百四號

税關管轄區域左ノ通之ヲ定ム

横濱税關管轄區域

陸前 磐城 常陸 下總 上總 安房 武藏 相模 伊豆 駿河 遠

江 十一箇國及小笠原島ノ沿岸

大阪税關管轄區域

參河 尾張 伊勢 志摩 紀伊 和泉 攝津西成郡以東

七箇國ノ沿岸

神戸税關管轄區域

攝津川邊郡以西 播磨 備前 備中 備後 安藝 周防 長門 石見 出雲

伯耆 因幡 但馬 丹後 隱岐 伊豫 土佐 阿波 讃岐 淡路

二十箇國ノ沿岸

長崎税關管轄區域

肥前 肥後 筑前 筑後 豊前 豊後 日向 大隅 薩摩 壹岐 對馬

琉球

十二箇國ノ沿岸

新潟税關管轄區域

若狹 越前 加賀 能登 越中 越後 羽前 羽後 佐渡

税關管轄區域

九箇國ノ沿岸

函館税關管轄區域

陸奥 陸中 渡島 後志 石狩 天鹽 北見 根室 千島 釧路 十勝

日高 膽振

十三箇國ノ沿岸

朕省令廳令府縣令及警察令ニ關スル罰則ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年九月十八日

內閣總理大臣 伯爵山縣有朋

內務大臣 伯爵西鄉從道

勅令第二百八號

第一條 各省大臣ハ法律ヲ以テ特ニ規定シタル場合ヲ除クノ外其ノ發スル所ノ省令ニ二十五圓以内ノ罰金若ハ二十五日以下ノ禁錮ノ罰則ヲ附スル

司法大臣	伯爵山田顯義
大藏大臣	伯爵松方正義
陸軍大臣	伯爵大山 巖
遞信大臣	伯爵後藤象二郎
外務大臣	子爵青木周藏
海軍大臣	子爵樺山資紀
文部大臣	芳川顯正
農商務大臣	陸奥宗光

省令廳令府縣令警察令ニ關スル罰則ノ件

コトヲ得

第二條 地方長官及警視總監ハ其ノ發スル所ノ命令ニ十圓以内ノ罰金若ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得

朕間接國稅犯則者處分ニ關スル書類送達ノ件ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年十月十日

大藏大臣 伯爵松方正義

勅令第二百三十二號

第一條 間接國稅犯則者處分ニ關シ犯則者ニ對シ書類ヲ送達スルニハ使丁ヲシテ之ヲ送達セシムヘシ但送達ヲ受クヘキ者遠隔ノ地ニ在ル場合ニ於

テハ書留郵便ヲ以テ送達スルコトヲ得

第二條 使丁ハ送達書類ヲ本人ニ渡スヘシ本人不在ナルトキハ同居人ニ渡スヘシ

使丁ハ送達書類ヲ受取りタル者ヨリ領收書ヲ取りテ間稅署若ハ間稅分署ニ差出スヘシ若シ受取人領收書ヲ記スルコト能ハサルトキハ使丁代テ之ヲ記シ其旨ヲ附記シテ捺印セシムヘシ

第三條 送達ヲ爲スニ當リ本人不在ニシテ且本人ニ代リテ受取ルヘキ者アラサルトキハ送達書類ヲ其地ノ市町村長ニ渡シ市町村長ハ其書類ヲ受取人ニ渡シ其領收書ヲ取りテ間稅署長若ハ間稅分署長ニ差出スヘシ

第四條 市町村長ニ於テ相當ノ處置ヲ爲スモ受取人ニ渡スコト能ハサルトキハ其旨ヲ間稅署長若ハ間稅分署長ニ報告スヘシ

朕帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

明治二十三年十月二十三日

大藏大臣 伯爵松方正義

勅令第二百六十三號

帝國議會議長副議長議員歲費及旅費支給規則

第一條 帝國議會議長副議長及議員ノ歲費ハ毎年七月ヨリ翌年六月ニ至ル十二箇月ヲ以テ一歲トシ計算ス

第二條 議長副議長及議員ノ歲費ハ其ノ前六箇月分ヲ帝國議會通常會開會

ノ後三十日以内ニ其ノ後六箇月分ヲ閉會ノ後七日以内ニ支給ス

第三條 議長副議長ノ歲費ハ其勅任セラレタル當月分ヨリ支給ス

議長副議長ニ勅任セラレタル議員ノ歲費ハ其ノ勅任セラレタル前月分マテ支給ス

第四條 貴族院勅任議員ノ歲費ハ其勅任セラレタル當月分ヨリ支給ス但シ多額納稅者ノ互選セラレタル者ハ其ノ互選セラレタル當月分ヨリ支給ス

第五條 議長副議長及議員退職辭職除名ノ場合ニ於テハ其ノ當月分迄ヲ支給ス

第六條 衆議院解散ヲ命セラレタルトキハ其ノ議長副議長及議員ノ歲費ハ解散ヲ命セラレタル當月迄ヲ支給ス

第七條 衆議院解散ヲ命セラレタル後選舉セラレタル議員及補缺議員ノ歲

費ハ其ノ選舉セラレタル當月分ヨリ支給ス

第八條 衆議院ノ議員貴族院ノ議員トナリタルトキ其ノ他如何ナル場合ヲ問ハス歳費ハ同一人ニ對シ重複支給セス

第九條 官吏ニシテ議員タル者官吏ヲ罷メタルトキハ其ノ當月分ヨリ議員ニシテ官吏ニ任セラレタル者仍議員タルトキハ其ノ當月分マテヲ支給ス

第十條 議長副議長及議員ノ旅費ハ別表定ムル所ニ從ヒ之ヲ支給ス官吏ニシテ議員タル者亦同シ

上京旅費ハ歳費ノ前半額ト歸郷旅費ハ歳費ノ後半額ト同時ニ之ヲ支給ス
第十一條 旅費ハ當選區ノ何地ニ在ルヲ問ハス其ノ住居地ヨリ直路ノ里程ヲ計算シテ之ヲ支給ス

第十二條 議院ヲ距ル三里以内ノ地ニ住居スル者ハ何地ノ議員タルヲ問ハ

ス旅費ヲ支給セス

第十三條 汽車旅行ハ一日二百哩詰汽船旅行ハ一日百海里詰陸路旅行ハ一日十二里詰ノ割合ヲ以テ直路ノ行程ニ應シ支給ス但シ一日ノ行程ニ滿タサル端數ハ切捨トス

第十四條 召集ニ應セサル議員ニハ事故ノ如何ヲ問ハス旅費ヲ支給セス

旅費表

汽	車	一哩ニ付	汽	船	一海里ニ付	車	馬	一里ニ付	日	當
拾	錢		拾	錢		參	拾	錢	貳圓	五拾錢

省令

大藏省令第十七號

本年勅令第百二十五號ニ據リ官吏遺族扶助法第二條ノ納金收入規則制定ニ付文官判任以上ノ者俸給支給ニ係ル仕拂命令仕拂請求書及金額氏名表書式左ノ通相定ム

明治二十三年七月十七日

大藏大臣 伯爵松方正義

(一) 内及印章ハ朱

備考

〔第一〕 仕拂命令官ニ於テ俸給ノ仕拂ヲナスニ當リ其仕拂命令若クハ仕拂請求書ノ金額ノ内譯額ヲ二項ニ分チ一ハ現金支給品一ハ國庫納金高(即チ俸給百分ノ二)ト爲シ式ノ如ク列記シテ仕拂命令若クハ仕拂請求書ヲ發スルモノトス

〔第二〕 仕拂命令官ニ於テ前項ノ仕拂命令若クハ仕拂請求書ヲ發シタルトキハ同時ニ該仕

拂命令若クハ仕拂請求書ニ記載セル國庫納金高年度主管廳番號債主ノ氏名等ヲ仕拂命令若クハ仕拂請求書一葉毎ニ歳入ノ調定官へ報告ヲナスモノトス

第三 歳入ノ調定官ニ於テ仕拂命令官ヨリ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ即日共旨ヲ收入官吏へ通知ヲナスモノトス

第四 仕拂請求書ニ要スル金額及收入官吏氏名ハ此書式ノ如ク記入スヘキモノナレトモ其他ノ要部ハ本年大藏省令第九號書式中第二十二號第二十四號書式ニ據ルモノトス

乙第何號 某年度 經常(臨時)歳出

金五拾圓也	現金支給高 國庫納金引去高
金四拾九圓五拾錢也	
内 金五拾錢也	

此仕拂命令本日發行ス 又ハ (何ノ誰外何人代何ノ誰) 何ノ誰渡

仕拂命令官 官氏名 [印]

何地金庫宛

明治何年何月何日

何廳收入官吏官氏名

仕拂命令官[印]

官吏遺族扶助法ニ係ル仕拂命令等書式ノ件

明治何年 何月何日	第何號	某年度	經常(臨時)歲出				
	何廳所管		何々(款)何々(項)				
<table border="1"> <tr> <td>金五拾圓也</td> <td rowspan="3">現金支給高 國庫納金引去高</td> </tr> <tr> <td>内 金四拾九圓五拾錢也</td> </tr> <tr> <td>金五拾錢也</td> </tr> </table>				金五拾圓也	現金支給高 國庫納金引去高	内 金四拾九圓五拾錢也	金五拾錢也
金五拾圓也	現金支給高 國庫納金引去高						
内 金四拾九圓五拾錢也							
金五拾錢也							
又ハ 何ノ誰渡 (何ノ誰外何人代人何ノ誰)							
何地金庫							
<table border="1"> <tr> <td>支出之目的</td> </tr> <tr> <td> </td> </tr> <tr> <td> </td> </tr> <tr> <td>何廳收入官吏官氏名</td> </tr> </table>				支出之目的			何廳收入官吏官氏名
支出之目的							
何廳收入官吏官氏名							

仕拂命令官制印

印

甲第何號	某年度	經常(臨時)歲出					
何廳所管		何々(款)何々(項)					
<table border="1"> <tr> <td>金五拾圓也</td> <td rowspan="3">現金支給高 國庫納金引去高</td> <td rowspan="3">又ハ 何ノ誰渡 (何ノ誰外何人代人何ノ誰)</td> </tr> <tr> <td>内 金四拾九圓五拾錢也</td> </tr> <tr> <td>金五拾錢也</td> </tr> </table>			金五拾圓也	現金支給高 國庫納金引去高	又ハ 何ノ誰渡 (何ノ誰外何人代人何ノ誰)	内 金四拾九圓五拾錢也	金五拾錢也
金五拾圓也	現金支給高 國庫納金引去高	又ハ 何ノ誰渡 (何ノ誰外何人代人何ノ誰)					
内 金四拾九圓五拾錢也							
金五拾錢也							
本行ノ金額此仕拂命令持參人ニ仕拂可有之候也							
仕拂命令官 官氏名 印							
調定濟(特命調定) 會計主務官 官氏名 印 明治何年何月何日							
支出之目的	何地金庫	50000					
何廳收入官吏官氏名							

甲 第 何 號	某 年 度	經常(臨時)歳出
何 廳 所 管 何々(款) 何々(項) 集 合		
金百圓也 内 金九拾九圓也 内 金壹圓也	現金支給高 國庫現金引去高	何ノ誰外何人渡 又ハ(何ノ誰外何人代何ノ誰何人)
本行ノ金額此仕拂命令付屬ノ氏名表ニ照シ仕拂可有之候也		
		仕拂命令官 官氏名 [印]
調定濟(特命調定) 會計主務官 官氏名 [印]		明治何年何月何日
支出之目的	何地金庫宛	100000
何廳收入官吏官氏名		

乙 第 何 號	某 年 度	經常(臨時)歳出
何 廳 所 管 集 合		
金百圓也 内 金九拾九圓也 内 金壹圓也	現金支給高 國庫現金引去高	何ノ誰外何人渡 又ハ(何ノ誰外何人代何ノ誰何人)
此仕拂命令本日發行ス		
調定濟(特命調定) 會計主務官 官氏名 [印]		仕拂命令官 官氏名 [印]
		明治何年何月何日
何地金庫宛		
何廳收入官吏官氏名		

仕拂命令官(副印)

印

任拂命令官印

印

明治何年 何月何日	第何號	某年度經常(臨時)歲出				
	何廳所管何々(款)何々(項)集合					
<table border="1"> <tr> <td>金百圓也</td> <td rowspan="3">現金支給高 國庫現金引去高</td> </tr> <tr> <td>內金九拾九圓也</td> </tr> <tr> <td>金壹圓也</td> </tr> </table>			金百圓也	現金支給高 國庫現金引去高	內金九拾九圓也	金壹圓也
金百圓也	現金支給高 國庫現金引去高					
內金九拾九圓也						
金壹圓也						
又ハ (何ノ誰外何人代人何ノ誰外何人)						
何地金庫						
支出之目的						
何廳收入官吏官氏名						

某年度集合仕拂命令第何號金額氏名表

一金百圓也

內

金九拾九圓也

金壹圓也

內譯

金貳拾圓也

內

金拾九圓八拾錢也

金貳拾錢也

金何圓也

內

金何圓何拾錢也

金何錢也

明治何年何月何日

何廳勤務
何ノ誰外何人俸給高

現金支給高

國庫納金引去高

(第壹號)何ノ誰渡

現金支給高

國庫納金引去高

(第號)何ノ誰渡

現金支給高

國庫納金引去高

何廳仕拂命令官官氏名 印

官吏遺族扶助法ニ係ル仕拂命令等書式ノ件

大藏省令第十八號

仕拂命令仕拂請求書又ハ會計主務官ヨリ交付シタル領收證書出納官吏ヨリ交付シタル引出切符二十三年一月一日以後ニ發シタル仕拂切符ヲ盜取セラレ又ハ亡失シタル時ノ取扱方左ノ通相定ム

明治二十三年七月二十六日

大藏大臣 伯爵松方正義

第一條 仕拂命令、仕拂請求書又ハ領收證書(會計主務官ノ捺印シタルモノ)仕拂切符、引出切符ヲ盜取セラレ又ハ亡失シタル時ハ記名者ヨリ其旨ヲ署名捺印シタル書面ヲ以テ仕拂命令、仕拂請求書、領收證書(會計主務官ノ捺印シタルモノ)仕拂切符、引出切符ニ指定シタル金庫ニ届出可シ
届書ニハ其種類ニ從ヒ左ノ事項ヲ記スヘシ

一 仕拂命令、仕拂請求書ナル時ハ金額、番號、年度、科目、振出日附、仕拂命令官會計主務官氏名仕拂フヘキ金庫名、受取人氏名住所

二 領收證書(會計主務官ノ捺印シタルモノ)ナル時ハ金額、番號(仕拂命令又ハ仕拂請求書ノ番號共)年度、支拂フヘキ金庫名、用紙ヲ交付シタル官廳名、受取人氏名住所

三 仕拂切符ナルトキハ金額、番號、年度、科目、振出ノ日付、會計主務官氏名、仕拂フヘキ金庫名、受取人氏名住所

四 引出切符ナル時ハ番號、金額、振出日付、出納官吏ノ氏名仕拂フヘキ金庫名、受取人氏名

届書ニ押捺スル印章ハ前ニ仕拂命令官又ハ會計主務官ニ差出シタル請求書又ハ受取證書ニ押捺シタル印章ト同一ナル印章ヲ用ユヘシ

第二條 金庫ニ於テ前條ノ届書ヲ受ケタル時既ニ仕拂濟ナルトキハ其旨ヲ

仕拂命令等紛失ノ取扱方

届出人ニ告ケテ届書ヲ返付スヘシ

仕拂以前ナル時ハ案内仕拂命令案内仕拂請求書又ハ氏名表若クハ案内書案内引出切符ニ仕拂故障アル旨ヲ付箋シ届書ハ會計主務官ニ送付スヘシ

但届出人ニ對シテハ届書ノ受取證書ヲ渡スヘシ

第三條 會計主務官金庫ヨリ届書ノ送付ヲ得タルトキハ之ヲ調査シ正當ナリト認ムルニ於テハ其旨ヲ届書ニ記入シ署名捺印シテ金庫ニ還付スヘシ

第四條 金庫ニ於テ會計主務官ヨリ届書ノ返付ヲ受ルトキハ債主ニ通知シテ仕拂ヲナスヘシ

大藏省令第二十一號

會計法ニ基キ計算出納ニ關スル諸證書中ニ記載スル金員ニシテ「三」「廿」「卅」

ノ數字ハ自今「參」「貳拾」「參拾」ノ字體ヲ用ユヘシ

明治二十三年九月四日

大藏大臣 伯爵松方正義

大藏省令第二十二號

本年九月勅令第二百三號稅關規則第九條及第四十八條ノ特許手数料左ノ通之ヲ定ム

明治二十三年九月十二日

大藏大臣 伯爵松方正義

稅關平日貨物積卸特許手数料

一日没ヨリ日出マテ

每一時間 壹圓五拾錢

稅關休日貨物積卸特許手数料

一日出ヨリ日没マテ

每一時間 壹圓

諸證書中ノ金員數字々體用方 稅關特許手数料

一日没ヨリ日出マテ 同 壹圓五拾錢

税關平日臨時開廳特許手数料

一午後四時ヨリ同六時マテ 拾五圓

一午後四時ヨリ同十二時マテ 四拾五圓

一午後四時ヨリ同十二時ヲ過ルトキ 九拾五圓

一午前六時ヨリ同十時マテ 貳拾圓

但前日ヨリ引續キ開廳ノ場合ハ此限ニアラス

税關休日臨時開廳特許手数料

一午前十時ヨリ午後四時マテ 貳拾五圓

一午前十時ヨリ午後六時マテ 四拾圓

一午前十時ヨリ午後十二時マテ 七拾圓

一午前十時ヨリ午後十二時ヲ過ルトキ 百貳拾圓

税關出張所平日貨物積卸特許手数料

一日没ヨリ日出マテ 每一時間 七拾五錢

税關出張所休日貨物積卸特許手数料

一日出ヨリ日没マテ 每一時間 五拾錢

一日没ヨリ日出マテ 同 七拾五錢

税關出張所平日及休日臨時開廳特許手数料

一日出ヨリ日没マテ 每一時間 壹圓

一日没ヨリ日出マテ 同 壹圓五拾錢

大藏省令第二十七號

誤排過渡整理手續

會計規則第三十六條但書ニヨリ會計主務官ヨリ金庫ニ送付シタル仕拂命令及仕拂請求書ニシテ受取人ニ現金交付前ニ於テ誤拂過渡ニ出タルコトヲ發見シタルトキ整理手續左ノ通り定ム

明治二十三年十月八日

大藏大臣 伯爵松方正義

第一條 仕拂命令官ヨリ仕拂命令及仕拂請求書ノ金額誤拂過渡ニ付歳入ニ編入ノ儀金庫ヘ令達方大藏大臣ヘ請求スヘシ但仕拂命令及仕拂請求書ノ金額一部分誤拂過渡ナルトキハ其一部分ヲ受取人ニ交付シ殘額ハ歳入ニ編入ノ儀金庫ヘ令達方ヲ請求スヘシ

第二條 前條ノ請求書ニハ左ノ事項ヲ詳記スヘシ

一 仕拂命令及仕拂請求書ノ金額、番號、年度、科目、振出日付、仕拂命令官會計主務官官氏名、仕拂フヘキ金庫名、受取人氏名

一 誤拂過渡トナリタル事由

一 誤拂過渡ヲ歳入トスヘキ歳入ノ主管廳名(北海道廳府縣ノ歳入ハ其廳府縣名)取扱廳名、收入官吏官氏名、及歳入ノ年度

第三條 仕拂命令官第一條ノ請求ヲ爲シタルトキハ同時ニ誤拂過渡ノ金額歳入ニ編入ノ儀ヲ歳入調定官ニ通知シ歳入ノ調定官ハ其金額、歳入科目、年度等ヲ收入官吏ニ通知スヘシ

第一條但書ノ場合ニ於テハ仕拂命令官ヨリ大藏大臣ヘ請求ノ趣ヲ會計主務官ニ通知シ會計主務官ハ正當ニ交付スヘキ金額ノ規定領收證書ヲ作り之ヲ債主ニ交付シ前ニ交付シタル規定領收證書ハ取上ケ廢棄スヘシ

第四條 第一條ノ請求ニ依リ大藏大臣ヨリ金庫ニ向テ令達ヲナシタルトキハ金庫ハ誤拂過渡ノ金額ヲ歳出ノ手續ヲ以テ拂出シ直チニ之ヲ令達書ニ

指定ノ歳入主管廳取扱廳及收入官吏ノ收入トシテ歳入ニ受入ルヘシ此場
合ニ於テ金庫ハ直チニ其趣ヲ會計主務官及收入官吏ニ通知スヘシ

第五條 前條ニ依リ金庫ヨリ會計主務官ニ送付スル通知書ニハ第二條一項
ノ事項ヲ記入スヘシ但仕拂命令及仕拂請求書ノ金額一部分誤拂過渡ノ場
合ニハ其誤拂過渡ニ係ル金額ヲモ記入スヘシ

前條ニ依リ金庫ヨリ收入官吏ニ送付スル通知書ニハ第二條一項及三項ノ
事項ヲ記入スヘシ

第六條 收入官吏ハ第三條調定官ノ通知ニ依リ調定濟ノ記帳ヲ爲シ第四條
金庫ノ通知ニ依リ收入濟ノ記帳ヲ爲スヘシ

第七條 本年大藏省令第十七號ニ依リ定メタル書式ノ仕拂命令及仕拂請求
書ニシテ本令ノ場合ニ係ルトキ其國庫納金引去高ハ總テ本年勅令第二百二

十五號官吏遺族扶助法納金收入規則ニ依リ當該主管廳取扱廳ノ歳入ニ立
テ其他ハ本令ニ依リ收支ノ手續ヲナスヘシ

大藏省令第二十八號

明治二十二年當省令第十一號書式第十號過年度支出計算書左ノ通り改正シ
同書式第十一號定額戻入要求書備考ヲ會計規則第六十三條ノ定額戻入要
求書ハ此書式ニ據リ二通ヲ調製スルモノトス_レト改正ス

明治二十三年十月十五日

大藏大臣 伯爵松方正義

(内及印章ハ朱書)

過年度支出計算書

所屬年度			豫算區分		支拂命令官	支出ヲ要スル額	山
年度	款	項	豫算額 不用額	既ニ支出シタル金額			
何年度	何々	何々	900,000	0	900,000	200,000	何々
						800,000	何々
						400,000	何々
						800,000	何々
何年度	何々	何々	200,000	0	200,000	60,000	何々
						40,000	何々
						100,000	
						1,000,000	
					明治何年		
					何省大臣		
					月日		
					氏名		
					總計		

備考
會計規則第六十條ニ據リ過年度支出ヲサントスルトモ此書式ニ據リ附算書ヲ送付スルモノトス

訓令

大藏省訓令第百九號

金庫出納役

明治二十二年^{十二}月^{十二}日 大藏省訓令第七十二號金庫出納事務規程附屬書式中租稅

ト租稅外歲入トヲ區別スヘシトアルハ内國稅ニ限ル儀ト心得ヘシ

明治二十三年七月一日 大藏大臣 伯爵松方正義

大藏省訓令第百十一號

府 縣

本年^三月當省訓令第二十五號内國稅徵收費取扱順序第一條第二類費第一項及第二條第二項第三條第二項中死亡賜金ノ上ニ退官賜金ノ四字ヲ追加ス

金庫出納事務規程附屬書式中區別 内國稅徵收費取扱順序中追加 百三十一

明治二十三年七月十四日

大藏大臣 伯爵松方正義

大藏省訓令第百十三號

北海道廳 府縣

出納官吏

金庫出納役

本年勅令第百二十五號官吏遺族扶助法納金收入規則取扱順序左ノ通り心得
ヘシ

明治二十三年七月十八日

大藏大臣 伯爵松方正義

第一條 會計主務官ニ於テ本年大藏省令第十七號ヲ以テ規定シタル書式ノ
仕拂命令仕拂請求書ヲ受ケタルトキハ之ヲ調定シ其集合仕拂命令集合仕

拂請求書又ハ金庫所在地外へ送金ヲ要スル裏書アル仕拂命令仕拂請求書
ニ對シテハ第一號書式ノ領收證書用紙ニ式ノ如ク記入捺印シ之ヲ受取人
へ交付スヘシ但此場合ニ於ケル手續ハ本年大藏省訓令第十八號第二十三
條ニ同シ

第二條 金庫ニ於テ仕拂命令仕拂請求書ヲ受ケ現金ノ仕拂ヲ執行スルトキ
ハ該仕拂命令仕拂請求書金額ノ内譯ニ列記シタル（集合仕拂命令集合仕拂
請求書ニ付屬スル金額
氏名表中ノ者へ交付スルトキハ）國庫納金引去高ヲ扣除シ現金支給高ヲ受
取人ニ交付スヘシ

右扣除ノ國庫納金引去高ハ普通仕拂ノ順序ニ據リ一旦之ヲ拂出シ直ニ之
ヲ相當年度ノ歳入ニ振替納付ヲナスヘシ

金庫出納事務規程第十五條ノ送金ヲナス場合ト雖モ國庫納金引去高ハ前

項ノ順序ニ據ルモノトス

第三條 金庫ニ於テ前條ノ國庫納金引去高ヲ歲入金ニ振替納付シタルトキハ即日第二號書式ノ國庫納金引去高收入報告書ヲ調製シ收入官吏へ送付スヘシ

第四條 收入官吏ニ於テ歲入ノ調定官ヨリ官吏遺族扶助法ニ據リ收入スヘキ金額ノ通知ヲ受ケタルトキハ收入簿調定濟額ノ欄内へ其金額ヲ登記スヘシ

第五條 收入官吏ニ於テ第三條ノ國庫納金引去高收入報告書ヲ受ケタルトキハ收入簿收入濟額ノ欄内へ其金額ヲ登記スヘシ

第六條 現金前渡ヲ受ケタル官吏ニ於テ俸給仕拂ノトキ官吏ノ納金額ヲ差引徴收シタルトキハ第三號書式ノ納金額表ヲ添へ之ヲ其廳ニ於テ普通ノ

諸收入ヲ收入スル官吏ニ拂込ヘシ

第七條 前條ノ拂込ヲ受ケタル收入官吏ハ其拂込ヲナシタル收入官吏ニ現金ノ領收證書ヲ交付シ收入簿現金出納簿ノ登記及金庫へ拂込ノ手續ヲナスヘシ

第八條 現金前渡ヲ受ケタル官吏ハ第六條ノ場合ニ於テハ現金ヲ領收スル收入官吏トシテ總テ其規程ニ依ルモノトス但會計規則第三章ニ定メタル收入報告書ヲ差出スニ及ハス

第一號書式

(「内及印章ハ朱」)

第	何	號	受取人	何應勤務ノ誰
其年度(集合)仕拂命令第何號(内)印 一金「貳拾圓也」 金「拾九圓八拾錢也」 内金「貳拾錢也」 (第「壹」號)(金額氏名表内譯ノ番號ト符合ス) 俸給高 現金支給高 國庫納金引去高 右領收候也 明治何年何月何日 受取人何ノ誰印 何地金庫宛				

備考

第一 集合仕拂命令集合仕拂請求書ノ内受取總代人へ交付スヘキ分又ハ各廳ニ於テ局(課)員申合セノ上受取總代人ヲ選定シタルニ據リ其總代人へ仕拂ノメ仕拂命令仕拂請求書ヲ發シ金庫所在地外へ送金ヲ要スル分ノ領收證書受取人ノ

第一 欄内へハ何應勤務何ノ誰外何人總代人何ノ誰ト記入スヘシ
 第二 本書式ニ示サル要部ハ總テ本年大藏省訓令第十八號附屬書式ニ依ルヘシ

官吏遺族扶助法納金收入規則取扱順序

某年度歲入國庫納金

仕 拂 命 令 之 要			
所 管 廳	年 度 仕 拂 命 令 書	番 號	仕 拂 命 令 官 氏 名
基 基	二十三年度仕拂命令 二十三年度集合仕拂請求書	第一號 第二號	基 基

明治何年何月

何廳收入官吏

引去高收入報告表

第二號書式

領 主 氏 名	收 入 金 額		收 入 取 扱 廳	備 考
	基	外		
基 外 何 人	0200		基 基	
		1000		
締高可		1200		

何 日

何 地 金 庫 圖

官 氏 名 宛

官吏遺族扶助法納金收入規則取扱順序

某 年 度 國

前 渡 仕 拂 命 請 求 令 書 之 要			
所 管 廳	年 度	仕 拂 命 請 求 令 書 番 號	仕 拂 命 請 官 氏 名
基 基	二十三年度仕拂命令 二十三年度集合仕拂請求書	第一號 第二號	基 基

御 及 通 及 御
何 年 何 月 何 日
何 廳 納 金 額

何 廳 收 入 官 吏 官

庫 納 金 額 表 第三號書式

領	債 主 氏 名	收 入 金 額	收 入 取 扱 廳	備 考
前渡官吏官氏名	基 基 基外何八	0500 1000	基 基	
		縮高円 1500		

引繼候也

月何日

ヲ差引徴收シタル收入官吏官氏名宛

氏名宛

大藏省訓令第百十五號

北海道廳 府縣

諸貸付金取扱順序左ノ通心得ヘシ

明治二十三年七月二十五日

大藏大臣 伯爵松方正義

諸貸付金取扱順序

第一條 諸貸付金ヲ五種類トシ左ノ名稱ヲ以テ區別ス

一 舊藩貸 二 勸業貸 三 繰換貸 四 雜種貸 五 据置貸(從來雜種貸中還納未定ト稱セシモノ)

第二條 諸貸付金ノ返納ハ本年當省訓令第四十七號及第四十九號ニ據リ整理スヘシ

第三條 前條返納金ノ收入濟額ハ一廉毎ニ記載シタル仕譯書ヲ調製シ收入集計表ニ添付スヘシ

第四條 負債者他管下ヘ移轉シタルトキハ協議ノ上引繼受ノ順序ヲ了シ其時々報告スヘシ

第五條 据置貸ノ返納アルトキハ雜種貸ヘ組換ノ上收納スヘシ

第六條 諸貸付金ノ精算報告書ハ毎年度ノ現狀ヲ以テ左ノ書式ニ據リ調製翌年度四月十五日限リ差出スヘシ

明治何年度諸貸付金精算報告書

舊藩貸

一金

四月一日現狀

内

金

何ノ某ニ係ル未納

金

何ノ某ニ係ル未納

一金

増額

諸貸付金取扱順序

大藏省訓令第百十六號

府 縣

本年三月當省訓令第二十五號明治二十三年度内國稅徵收費取扱順序第一條第二類費第二項中差押物件買上代ノ下ニ鑑札招牌製造費訴訟入費ノ二項ヲ追加シ第二條第二項中死傷手當ノ下ニ鑑札招牌製造費訴訟入費ノ十一字ヲ挿入ス

明治二十三年八月十一日

大藏大臣 伯爵松方正義

大藏省訓令第百十七號

北海道廳 府縣

明治二十三年大藏省訓令第十二號恩賞諸祿仕拂取扱順序中左ノ通改正ス

但本年法律第四十三號官吏恩給法同第四十五號軍人恩給法實施前ニ屬スル一時賜金給助金賑恤金ノ仕拂方ハ本訓令改正前ノ順序ニ依ルヘシ

明治二十三年八月十三日

大藏大臣 伯爵松方正義

第二條削除

第三條中「若クハ第二條」ノ六字ヲ削ル

第五條中恩賞諸祿ノ仕拂ノ下ニ「ヲ爲シタルトキヨリ内譯明細書ヲ添ヘ」マテノ四十四字ヲ「命令ヲ發シタルトキハ第二號書式ノ仕拂明細書」ノ二十二字ニ改ム

第六條中「若クハ第二條」ノ六字ヲ削ル

第七條中「差出スヘシ」ヲ「差出シ同大臣ノ承認ヲ受クヘシ」ト改ム

内國稅徵收費取扱順序中追加 恩賞諸祿仕拂取扱順序中改正

第三條ヲ第二條ニ改メ以下逐條順次繰上ク

各書式表面ノ「經常歲出第一部恩賞諸祿」ヲ「歲出經常部恩賞諸祿」ト改ム

第二號書式表面ノ「支出報告内譯明細書」ヲ「仕拂明細書」ト改ム

第四號書式事由書ノ末段「納入スヘキ分」ヲ「納入ノ分」ト改ム

大藏省訓令第百十八號

造幣局 印刷局

稅關 北海道廳

府縣

仕拂命令仕拂請求書ニ「イロハ」等ノ記號ヲ付シタルモノニシテ定額戻入ヲ要スルトキハ其要求書仕拂命令番號ノ欄ニモ該記號ヲ付記スル儀ト心得ヘシ

明治二十三年八月十四日

大藏大臣 伯爵松方正義

大藏省訓令第百十九號

北海道廳 府縣

金庫出納役

北海道廳費府縣費内國稅徵收費及廣島鑛山費ヲ以テ支給スル俸給ニシテ明治二十三年大藏省令第十七號書式ノ仕拂命令仕拂請求書ヲ發スルモノハ案内仕拂命令案内仕拂請求書中何廳收入官吏官氏名ノ上へ北海道廳若クハ其府縣ノ收入ト記載發行スヘキ儀ト心得ヘシ

明治二十三年八月十六日

大藏大臣 伯爵松方正義

大藏省訓令第二百二十號

北海道廳 府縣

明治二十二年當省訓令第六十六號ニ依リ取扱フ租稅外ノ諸收入ニ係ル會計規則第九十條検査員ノ任命竝ニ同第九十五條第九十六條第九十七條第九十九條第百條ノ本屬大臣及事務管理廳ノ職務ハ道廳長官府縣知事ニ於テ執行スヘシ

明治二十三年八月二十一日

大藏大臣 伯爵松方正義

大藏省訓令第二百二十一號

金庫出納役

仕拂命令仕拂請求書規定ノ領收證書引出切符及仕拂切符ヲ盜取セラレ又ハ

亡失シタルトキニ係ル取扱手續左ノ通相定ム

明治二十三年八月二十二日

大藏大臣 伯爵松方正義

第一項 金庫ニ於テ明治二十三年大藏省令第十八號第二條ニ據リ届出人ニ交付スヘキ届書ノ受取證書ハ本訓令附屬書式ニ據リ調製スヘシ

第二項 金庫ニ於テ同省令第四條ニ據リ會計主務官ヨリ届書ノ返付ヲ受ケ現金ノ仕拂ヲナストキハ債主ヨリ届書ニ用ヒタル印章ト同一ナル印章ヲ押捺シタル現金ノ受取證書ニ前ニ金庫ヨリ渡シ置キタル届書ノ受取證書ヲ添ヘ差出サシムヘシ

但金庫ヨリ債主ヘ現金仕拂ノ通知ヲナストキ本文現金ノ受取證書及前ニ渡シ置キタル届書ノ受取證書共提供スヘキ旨ヲ通知スヘシ

第三項 金庫ニ於テ仕拂命令仕拂請求書ノ裏書ニ依リ金庫所在地外ノ債主

検査員ノ任免等執行方 領收證書等紛失ノ取扱手續

へ送金手形若クハ爲替手形振替拂證書ヲ郵便ニテ債主へ回送ヲナシタル
 際債主ニ於テ會計主務官ヨリ交付セシ規定ノ領收證書ヲ盜取セラレ又ハ
 亡失シタルニ付其債主ヨリ差出シタル同省令第一條ノ届書ヲ受ルトキハ
 同第二條第二項ニ據リ取扱フヘシ (金庫ヨリ爲替手形送金手形又ハ振替拂
 證書ヲ郵便ニテ債主へ送付スルモ債主
 ヨリ既定ノ領收證書ヲ金庫へ差出サハル間ハ未ダ
 現金支拂ノ執行ヲ結了セシモノニ非サリシニ依ル)
 第四項 前項届書ヲ會計主務官ヨリ返付シ來ルトキハ金庫ハ債主ヨリ届書
 ニ用ヒタル印章ト同一ナル印章ヲ押捺シタル回送金額ノ受取證書及金庫
 ヨリ渡シ置キタル届書ノ受取證書ヲ差出サシメ之ニ依リ仕拂ヲ完結スヘ
 シ
 第五項 金庫ニ於テ仕拂命令仕拂請求書ノ裏書ニ依リ金庫所在地外ノ債主
 へ現金ヲ以テ交付スルタメ遞送人ヲシテ回送ナサシメタル際債主ニ於テ

會計主務官ヨリ交付セシ規定ノ領收證書ヲ盜取セラレ又ハ亡失シタルニ
 付之レヲ徵スルコト能ハサルトキハ遞送人ハ現金ヲ交付セサルモノトス
 故ニ此場合ニ於テ其債主ヨリ差出シタル同省令第一條ノ届書ハ同第二條
 第二項ニ據リ取扱フヘシ
 第六項 前項ノ届書ヲ會計主務官ヨリ返付シ來ルトキハ金庫ハ仕拂ヲナス
 タメ更ニ遞送人ヲシテ現金ヲ送達セシメ届書ニ用ヒタル印章ト同一ナル
 印章ヲ押捺シタル受取證書及前ニ金庫ヨリ渡シ置キタル届書ノ受取證書
 ト引替ニ現金ヲ債主ニ交付セシムヘシ

原符	一仕拂命令盗難(亡失)届書 但 一仕拂命令ノ金額 一仕拂命令ノ番號 一仕拂命令官官氏名 明治何年何月何日	何府縣何市町村何番地 何
金庫	一仕拂命令ノ年度 一會計主務官官氏名	何府縣何市町村何番地 何
受取	一仕拂命令盗難(亡失)届書 但 一仕拂命令ノ金額 一仕拂命令ノ番號 一仕拂命令官官氏名	何府縣何市町村何番地 何ノ誰宛
證書	右書面領收候也 明治何年何月何日	何府縣何市町村何番地 何ノ誰宛
備考	用紙寸法適宜	

仕拂請求書領收證書仕拂切符及引出切符ニ係ル分モ此書式ニ依ル

大藏省訓令第百二十三號

造幣局 税關
北海道廳 府縣

大藏本省、恩賞諸祿、税關、内國稅徵收費、諸拂戻及缺損補填金、非職俸給及造幣局作業費、廣島縣鑛山作業費ノ支出計算書ハ下検査官吏ニ於テ其検査執行ノ際會計主務官ト所在離隔シ一般ノ規程ヲ踐行シ能ハサルヲ以テ左ノ様式ニ準シ造幣局長、税關長、北海道廳長官、府縣知事ニ於テ其ノ計算書ト會計主務官ノ支出簿ト符合正確ノ保證書ヲ作り計算書ト共ニ大藏省ニ送付スヘシ

明治二十三年八月二十七日

大藏大臣 伯爵松方正義

保證書

支出計算書様式

一(何々)支出計算書

右計算書中ノ各項目其ノ他ノ事項金額トモ支出簿ト對照セシニ總テ符合シ相違無之依テ保證候也

明治(何)年(何)月(何)日

造幣局長 稅關長 北海道廳長官 府縣知事 氏名印

大藏省(何)局長又ハ(何)局(何)課長氏名殿

(用紙ハ美濃判野紙)

大藏省訓令第百二十四號

北海道廳 府縣

租稅收入證明規程及ヒ租稅調定ニ關スル證憑書類調理順序左ノ通之ヲ定ム
但本年當省第百二號訓令收入官吏交替ノトキ證明スヘキ計算書ノ内租稅

ニ關スル分ハ自今總テ此規程ニ準據スヘシ

計算書及ヒ明細書樣式ハ主稅局ヨリ別ニ之ヲ頒ツ

明治二十三年八月二十七日

大藏大臣 伯爵松方正義

租稅收入證明規程

第一條 會計規則ニ據リ收入官吏ノ證明スヘキ租稅收入計算書現金出納計算書ハ第一號及第二號書式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二條 一會計年度中收入官吏ノ交替アリシトキ後任收入官吏ノ證明スヘキ租稅收入計算書ニ於テハ尙ホ前任收入官吏ノ計算額ヲ併算スヘシ

第三條 租稅收入未濟ノモノ又ハ滯納處分ヲ爲セシモノアルトキハ第三號及第四號書式ニ依リ其明細書ヲ調製シ租稅收入計算書ニ添付スヘシ

第四條 前年度ニ於テ證明濟ニ係ル繰越未收入額ニ異動ヲ生シタルモノア

租稅收入證明規程及租稅調定ニ關スル件

ルトキハ租稅收入計算書ニハ其修正員額ヲ登記シ別ニ其明細書ヲ調製添付スヘシ

第五條 國稅滯納處分法第十一條ニ據リ管轄地外ノ收入官吏ニ於テ滯納處分ヲ爲セシモノアルトキハ受托收入官吏ハ第四號書式ニ倣ヒ適宜其明細書ヲ調製シ他ノ書類ト共ニ囑托收入官吏ニ送致シ囑托收入官吏ハ一般租稅收入計算書ト共ニ證明スヘシ

第六條 國稅滯納處分法ニ據リ滯納處分ヲ爲セシモノアルトキハ左ノ書類ヲ滯納處分明細書ト共ニ提出スヘシ

- 一 財産賣却調書
- 二 債主又ハ滯納者ヘ交付金領收書
- 三 國稅滯納者ノ財産其處分費ヲ償フテ過剩ヲ得ル見込ナク國稅滯納處

分法第五條ニ據リ直ニ缺損處分ヲ爲シタルモノアルトキハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ其事實ヲ認メタル保證書

第七條 現金出納計算書ニハ金庫ノ領收證書ヲ添付スヘシ

前項ノ領收證書ハ其所屬年度ニ依リ區分編纂スヘシ

第八條 下検査官吏ハ計算書ノ下検査ヲ完了シ左ノ期日内ニ其應ヲ發シ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ但運輸不便又ハ遠隔ノ地ニアル收入官吏ノ計算書ニシテ其期限ニ依リ難キモノハ豫メ其事由ヲ具シ會計検査院ノ承認ヲ受クヘシ

- 一 租稅收入計算書ハ翌年度十二月二十五日以内
- 二 現金出納計算書ハ翌年度七月二十五日以内

第九條 下検査書ハ計算書毎ニ區分調製シ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 計算書明細書其他證憑書類ノ件名册數
- 二 租稅收入計算書ハ收入簿ト現金出納計算書ハ現金出納簿ト符合ヲ認メタル保證但當該下検査官吏ニテ事實施行シ難キ場合ニ於テハ他ノ監督ノ任アル官吏ノ保證書ヲ以テスルコトヲ得
- 三 計數正確ノ保證
- 四 法律命令ニ背戻シ又ハ事實ニ適合セスト認定セシ事項ノ金額事由
- 五 證憑書類中必要ノモノニシテ検査終了ノ上返付ヲ要スル書類ノ件名
- 第十條 收入官吏ニ對スル審理書及其答辯書ハ總テ下検査官吏ヲ經由スヘシ
- 第十一條 海關稅及沖繩縣租稅東京府管轄伊豆七島ニ係ル物品稅ノ證明規程ハ別ニ之ヲ定ム

租稅調定ニ關スル證憑書類調理順序

- 第一條 北海道廳長官及ヒ府縣知事ハ第一號乃至第三號書式ニ依リ每會計年度租稅調定額明細書過誤納額明細書荒地低價地及開墾地下期地明細書ヲ調製シ毎年度經過後七箇月以内ニ大藏省ヲ經由シテ之ヲ會計検査院ニ送付スヘシ
- 第二條 租稅調定ニ關スル證憑書類ハ第三條以下各條ニ依リ之ヲ調理スヘシ其提出ヲ要スルモノハ毎年度豫メ會計検査院ニ於テ之ヲ指定ス
- 第三條 地租ニ關スル證憑書類左ノ如シ
 - 一 官有地ヲ民有地下爲セシモノアルトキハ土地臺帳規則第二條ニ依リ登記所ヨリ送致セル土地所有移轉ノ通知書及地價檢定ニ係ル指令原議書

- 二 免租地ヲ有租地ト爲セシモノアルトキハ其指令原議書及ヒ地價檢定ニ係ル指令原議書
- 三 地目變換開墾跡下年期明又ハ第一類地ヲ第二類地ニ變換シタルモノアルトキハ修正地價ニ依リ地租ヲ徵收スヘキ年度ニ於テ地價檢定ニ係ル指令原議書
- 四 荒地成若クハ有租地ヲ免租地ト爲セシモノアルトキハ其指令原議書
- 五 民有地ヲ官有地ト爲セシモノアルトキハ登記所ノ通知書
- 六 低價年期明又ハ荒地免租年期明ニ至リ原地目ニ復シ若クハ他ノ地目ニ變シタルモノアルトキハ地價檢定ニ係ル指令原議書
- 七 延納年賦額ノ増減アルトキハ主管廳ノ認許書其廳限リノ處分ニ係ルモノニハ其決議書類

- 一時上納ニ對シテハ其決議書類
- 八 地盤丈量誤謬訂正其他ノ原由ニテ物件稅額ニ異動ヲ生シタルモノアルトキハ其證憑書類ハ前各項ノ規定ニ準據スヘシ

第四條 所得稅ニ關スル證憑書類左ノ如シ

- 一 調査委員會ノ決議書但所得稅法第二十九條但書ニ該當スル北海道及東京府管轄小笠原島伊豆七島ハ其上官ノ查定書
- 二 府縣知事郡長ニ於テ調査委員會ノ決議ニ對シ意見アルトキ若クハ納稅者ニ於テ等級金額ヲ不當トシ所得稅法第二十條ノ規定ニ從ヒ處分ヲ爲セシモノアルトキハ府縣常置委員會ノ決議書
自首ニ依リ税金ヲ追徵セシモノアルトキハ其屆書
- 三 納稅者其納期以前ニ於テ所得金高十分ノ五以上ヲ減損シ所得稅法第

二十三條ニ依リ稅額ヲ輕減又ハ免除セシモノアルトキハ其所得金高減損事由書

四 納稅者他管へ轉居セシモノアルトキハ其年月氏名轉居地名及ヒ所得金高稅額ヲ詳悉セル事由書

第五條 酒造稅ニ關スル證憑書類左ノ如シ

一 酒類造石稅ニハ造石檢査簿若シ造石稅免除ニ係ルモノアルトキハ其理由調書 此理由書ニハ納稅濟ト納稅未濟ニ屬スルモノトノ區別ヲモ亦明瞭ナラシムヘシ

二 酒造免許稅ニハ酒造營業人ノ出願書但前期限リ廢業セシモノアルトキハ其屆書

三 自家用料酒鑑札料ニハ其製造者ノ屆書

第六條 釐運營業稅ニ關スル證憑書類ハ該營業人ノ出願書トス

第七條 烟草稅醬油稅菓子稅賣藥稅船稅車稅牛馬賣買免許稅ニ關スル證憑書類左ノ知シ

一 烟草稅醬油稅菓子稅賣藥稅ノ新規營業稅ニハ其出願書但菓子營業稅ニハ尙ホ雇人ノ員數氏名屆書ヲ要ス

二 烟草稅菓子稅賣藥稅ノ鑑札料ニハ其出願書

三 醬油造石稅ハ第五條酒類造石稅ニ同シ

四 菓子製造稅ニハ賣上金高屆書

五 船稅車稅牛馬賣買免許稅ニハ其出願書但船稅ニ於テハ船體ヲ變更シ積量若クハ間數ニ増減ヲ生シタルモノアルトキハ其鑑札ノ引換願書

六 廢業又ハ船車ノ破解若クハ他管ヨリ轉入ノモノニハ各其屆書他管へ轉出ノモノニハ轉入先ヨリ送致セル編入濟ノ報告書

第八條 米商會所稅株式取引所稅ニ關スル證憑書類ハ各會所ヨリ送致セル納稅仕譯帳トス

第九條 度量衡稅ニ關スル證憑書類ハ其製作受負人ヨリ差出シタル調書トス

第十條 銃獵免許稅ニ關スル證憑書類ハ其出願書トス但東京府ハ警視廳ノ通知書

第十一條 租稅期滿免除ニ係ルモノアルトキハ租稅調定額明細書ノ備考ニニ其金額事由ヲ記載スヘシ若シ事ノ複雑ニ涉ルモノアルトキハ別ニ其說明書ヲ添付スヘシ

第十二條 證憑書類ノ編纂ハ收稅部出張所毎ニ各目ニ區分シ(各目ヲ合セテ簿冊ヲ成セシモノハ區分ヲ要セス)其枚數ヲ表記シ尙ホ細別ヲ要スル

モノアルトキハ適宜區分スヘシ

地租ニ關スル證憑書類ハ有租地成地目變換等ノ區分ヲ以テ適宜之ヲ編纂スヘシ

第十三條 第二條ニ據リ提出セシ證憑書類中返附ヲ要スルモノアル時ハ其提出ノ際會計検査院ニ請求スヘシ

第十四條 海關稅及沖繩縣租稅東京府管轄伊豆七島ニ係ル物品稅調定ニ關スル證憑書類調理順序ハ別ニ之ヲ定ム

大藏省訓令第百二十五號

北海道廳 府縣

今般租稅收入證明規程相定候處右第六條第三項及ヒ第九條第二項ノ保證書

租稅收入證明規程中保證書ニ係ル件

ハ北海道廳理事官府縣收稅長ニ於テ之ヲ調製シ收入官吏計算書ト共ニ主稅局ヘ送付スヘシ

明治二十三年八月二十七日

大藏大臣 伯爵松方正義

大藏省訓令第二百二十六號

府 縣

二十三年度内國稅徵收費取扱順序第七條第二項中土地檢查費仕拂金額明細書報告手續左ノ通相定ム

明治二十三年九月四日

大藏大臣 伯爵松方正義

一土地檢查事業終了報告期限ヲ改メ其仕拂金額明細書ヲ一年二回ニ區分シ四月ヨリ九月迄ニ檢查終了セシモノヲ前期トシ十月ヨリ三月迄ノ分ヲ後

期トス

但既ニ報告済ノ府縣モ本文ニ倣ヒ更ニ報告スヘシ

一前期ノ明細書ハ十月二十日以内後期ノ明細書ハ四月二十日以内ニ報告スヘシ

一仕拂金額明細書ノ様式ハ主稅局ヨリ送付ス

大藏省訓令第二百二十七號

金庫出納役

金庫出納事務規程第三十條ニ據リ大阪本金庫ト各本金庫トノ間ニ於ケル振替金取扱順序左ノ通相定ム

明治二十三年九月十日

大藏大臣 伯爵松方正義

大阪本金庫各本金庫間振換金取扱順序

(内及印章ハ朱)

第一章 振換金額概算

第一條 大阪本金庫ニ於テ各地ノ受取人へ現金仕拂ノ爲メ各地本金庫ニ對シ其月ニ發行スヘキ振換拂證書ノ金額ヲ概算シ各本金庫毎ニ區別シタル振換金概算仕譯書ヲ調製シ前月二十日迄ニ中央金庫へ差出スモノトス

第二條 中央金庫ニ於テハ前條振換金概算仕譯書ヲ得タルトキハ直ニ大藏省へ提出シ認可ヲ乞フモノトス

大藏省ニ於テ認可濟ナルトキハ中央金庫ヨリ其旨ヲ大阪本金庫へ通達スルモノトス

第二章 振換拂證書發行

第三條 各廳仕拂命令官ヨリ仕拂命令書仕拂請求書ニ規定ノ如ク裏書ヲ爲

シ他へ送付ヲ請求アルトキ各地本金庫ト振換ラルヘキモノハ第二條認可濟概算額ヲ目的トシテ振換拂證書ヲ製シ(此振換拂證書ノ書式ハ金庫相互間同送金振換金取扱順序書式第二號ニ準シ其地紙ヲ赭色ニ爲シ一見シテ中央金庫ヨリ發行ノモノト識別シ得ラル、模勉メテ注意スヘシ)其甲號振換拂證書ハ受取人へ交付シ其乙號振換拂證書ハ振換拂ヲナスヘキ金庫へ案内トシテ送付シ原符ハ大阪本金庫へ留置クモノトス但第二條ノ認可濟概算額ニ超過スルトキハ振換拂證書ハ發行スルコトヲ得ス

當該本金庫ヲシテ其所在地外ノ受取人ニ向テ振換拂ヲ爲サシムル場合ニハ甲乙號振換拂證書ニ其旨ヲ記入シ振換拂證書甲乙號共之レヲ該本金庫へ送付スルモノトス

第四條 前條ノ振換拂渡方至急ヲ要スルトキハ大阪本金庫ヨリ電信ヲ以テ其旨ヲ通報スルモノトス其取扱手續ハ金庫相互間同送金振換金取扱順序

第十一條ニ準據スルモノトス

第五條 各地本金庫ニ於テ大阪本金庫ノ振換拂證書又ハ電信振換拂渡方ノ通報ヲ受ケタルトキハ金庫相互間回送金振換金取扱順序第十條及第十二條ニ準據シ取扱フヘシ但受取人へ現金ヲ交付シタルトキハ豫テ會計主務官ヨリ回付シアル規定ノ領收證書ヲ徴シ之ヲ大阪本金庫へ送付スルモノトス

第三章 計算報告

第六條 大阪本金庫ニ於テ第三條ニ據リ振換拂證書ヲ發行セシトキハ現金出納原簿上振換金受入ノ科目ヲ以テ整理シ（中央金庫ヨリ受入タルモ）毎五十ノ日ニ於テ第一號書式ノ振換金受入報告表ヲ調製シ中央金庫へ差出スモノトス

第七條 各地本金庫ニ於テ第五條ニ據リ振換拂ヲ爲シタルトキハ現金出納原簿上中央金庫ノ振換拂ト等シク振換金拂出ノ科目ヲ以テ整理シ（中央金庫ケ拂出シタルモノト）毎五十ノ日ニ中央金庫へ差出スヘキ回送及振換拂報告表ハ此振換拂ノ分ニ限リ別表ニ調製差出スモノトス
電信ヲ以テ報告スヘキ本金庫ニ於テハ毎五十ノ日左ノ略語ヲ以テ電報スルモノトス

大阪本金庫へ振換拂

「ヲフ」

第八條 中央金庫ニ於テ大阪本金庫ヨリ振換金受入報告表ヲ得タルトキハ現金出納原簿上「本金庫振換金」ノ科目ヲ以テ受入レノ記帳ヲナシ追テ各地本金庫ヨリ第七條ノ回送及振換拂報告表又ハ電信報告ヲ得テ拂出シノ

記帳ヲナシ決算スルモノトス

前項記帳ヲナシタル上大藏省へ報告スルハ一般報告順序ニ據ルモノトス
但本文振換金ハ中央金庫ニ於テ一ト廉毎ニ整理スヘシ

第九條 各地本金庫ニ於テ毎月別紙第二號書式ノ月計對照表ヲ調製シ翌月
五日迄ニ大阪本金庫へ送付スルモノトス

大阪本金庫ニ於テハ前項月計對照表ヲ得テ振換拂證書原符ニ對照シ該原
符へ「振換拂渡濟」ノ印ヲ捺シ該對照表へ式ノ如ク證明シテ之レヲ中央金
庫へ送付スルモノトス

第十條 大阪本金庫ニ於テハ毎月出納内譯書受ノ部へ「振換金受入」ノ科目
ヲ置キ（摘要ハ單ニ受入）其内譯ノ部ハ中央金庫振換金ノ書式ニ準シ調製ス
ルモノトス

第十一條 各地本金庫ニ於テハ毎月出納内譯書拂ノ部へハ中央金庫振換金
ト併合シテ記載シ其内譯ノ部へハ大阪本金庫振換拂證書ヲ區分記載スル
モノトス


大阪本金庫各本金庫間振替金取扱順序


第二號書式

第 號 明治何年何月中振換抽出金月計照表

摘 要	金 額		
	円	銭	厘
大阪本金庫			
振換證書第何號	0		
" 第何號	0		
" 第何號	0		
合計	0		

〔堅九寸横六寸五分〕

明治 年 月 日
何 地 本 金 庫 

書 面 之 金 額 相 違 無 之 候 也
明治 年 月 日
大 阪 本 金 庫 

第一號書式

第 號 明治何年何月何日ヨリ何日マテ振換金受入報告書

摘 要	金 額		
	円	銭	厘
何 地 本 金 庫			
振換證書第何號 紙幣銅貨	0		
" 第何號 "	0		
小計	0		
何 地 本 金 庫			
振換證書第何號 紙幣銅貨	0		
合計	0		

〔堅九寸横六寸五分〕

明治 年 月 日
大 阪 本 金 庫 

大藏省訓令第二百二十八號

北海道廳

沿海府縣

今般勅令第二百四號ヲ以テ稅關管轄區域制定相成候ニ付テハ右勅令施行ノ日ヨリ沿海開港外ニ於テ左ノ場合アルトキハ速カニ其地ノ町村役場若クハ浦役場ヨリ所管稅關ニ通報セシムヘシ

明治二十三年九月十二日

大藏大臣 伯爵松方正義

- 一 稅關法第三條ノ違犯者アリタルトキ
- 一 法律命令ニ背キ輸出入貨物ノ積卸ヲ爲ス者アリタルトキ
- 一 外國通航船避難ノ爲メ入港シタルトキ

- 一 外國船入港シタルトキ但特ニ免許ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス
- 一 外國通航船又ハ外國船難破シタルトキ

大藏省訓令第二百二十九號

府 縣

本年三月當省訓令第二十五號明治二十三年度内國稅徵收費取扱順序第二條第二項中訴訟入費ノ下ニ滯納處分費ノ五字ヲ插入ス

明治二十三年九月十五日

大藏大臣 伯爵松方正義

大藏省訓令第三百三十號

出納官吏

二十三年大藏省令第二號出納官吏身元保證金取扱規則第十一條ニヨリ身元保證金ノ拂戻ヲ請求セントスルトキハ左ノ書式ノ請求書ニ當省ヨリ交付シタル身元保證金納付濟證ヲ添付シ本屬大臣ヲ經由シテ差出スヘシ

明治二十三年九月十九日

大藏大臣 伯爵松方正義

書式

身元保證金拂戻請求書

拙者儀(又ハ何ノ誰儀)何廳何々出納官吏奉職ノ處明治何年何月何日退職(又ハ死亡)何年何月何日會計検査院ノ検査判決ニ依リ責任解除相成候ニ付豫テ納付ノ身元保證金御拂戻有之度依テ身元保證金納付濟證相添此段及請求候也

元何廳何々出納官吏

年月日

官氏名印

(本人死亡ノ際ハ遺族ニ於テ記名調印スヘシ)

大藏大臣宛

大藏省訓令第三百三十一號

北海道廳 府縣

會計規則第八十八條第五百六條第七條ニ據リ出納官吏ヨリ辨償金ヲ徵收スル時ハ歳入經常部雜收入ノ款辨償金ノ項中末位ニ出納官吏辨償金ノ目ヲ増設シ收入整理スヘシ

明治二十三年十月一日

大藏大臣 伯爵松方正義

大藏省訓令第三百三十二號

會計主務官

出納官吏辨償金整理科目ノ件 領收證書金庫へ回送途中紛失處分

金庫出納役

送金ヲ要スル仕拂命令及仕拂請求書ニ對シ金庫ヨリ現金送達ノ後チ債主ヨリ規定ノ領收證書ヲ金庫ニ向ケ回送ノ途中ニテ紛失シタル場合ニ於テハ金庫ヨリ債主ニ向テ更ニ適宜ノ領收證書ヲ請求シ之ヲ規定ノ領收證書ニ代用スルヲ得ル儀ト心得ヘシ

明治二十三年十月二日

大藏大臣 伯爵松方正義

大藏省訓令第三百三十三號

北海道廳 府縣

明治二十三年當省訓令第四十七號及同年三月五日第七六七號訓令ニ依リ取扱フ租稅外ノ諸收入ニ係ル會計規則第九十條第九十一條第一項第九十二條

検査員ノ任命竝ニ同第九十五條第九十六條第九十七條第九十九條第一百條ノ

本屬大臣及事務管理廳ノ職務ハ道廳長官府縣知事ニ於テ執行スヘシ

明治二十三年十月六日

大藏大臣 伯爵松方正義

大藏省訓令第三百三十四號

北海道廳 府縣 會計主務官

收入官吏 金庫出納役

國庫ヘノ納金ニシテ其納人ヨリ甲地ノ金庫又ハ收入官吏ヘ納付スヘキモノヲ乙地ノ金庫ヘ爲替納ノ請求ヲナシタルトキハ左ノ順序ニ據リ取扱フヘシ
明治二十三年十月十日

大藏大臣 伯爵松方正義

爲替納金取扱順序

租稅外諸收入ニ係ル會計規則中検査員任免執行方 爲換納金取扱順序

第一條 甲地ノ金庫へ納付スヘキ歳入金若クハ其他ノ納金ヲ其納人ヨリ現金ニ第一號書式ノ爲替納金請求書ヲ添へ乙地ノ金庫へ差出シタルトキハ乙地ノ金庫ニ於テハ之ヲ爲替納金トシテ領收ヲナスヘシ(爲替納金請求書ノ用紙ハ乙地ノ金庫ヨリ)交付ス

甲地ノ官廳ニ在勤スル收入官吏へ納付スヘキ金額ヲ其納人ヨリ乙地ノ金庫へ差出ストキモ亦總テ前項ニ據リ取扱フヘシ(納金スヘキ金庫即チ甲地令第三百三十五號第三項ニ依リ收)入官吏ヨリ納人へ通知ノ筈ナリ

第二條 乙地ノ金庫(支金庫共)ニ於テ納人ヨリ爲替納金ヲ領收シタルトキハ第二號書式ノ爲替納金領收證書ヲ調製シテ納人へ交付シ(納人ハ本文ノ爲替テ之ヲ現金ト同視シ甲地ノ金庫又ハ收)入官吏へ納付ノ順序ヲナスモノナリ之レカ通知書ハ歳入金若クハ其他ノ納金ヲ取扱フヘキ收入官吏へ送付スヘシ

第三條 乙地ノ金庫ニ於テ第二條ニ據リ甲地ノ金庫へノ爲替納金ヲ領收シタルトキハ現金出納原簿上雜部科目ヲ以テ整理シ中央金庫ニ於テハ各金庫雜部金内譯簿各本金庫ニ於テハ雜部金内譯簿中へ特ニ爲替納金ノ口坐ヲ設置(支金庫ニ於テ領收シタル爲替納金ニシテ本金庫へノ報告翌月ニ涉リ當該月ノ記帳ニナレ難キモノハ別ニ共支金庫ノ口坐ヲ設ケ記入ヲナスモノ)シ之レカ受入ノ記帳ヲナスヘシ(本文内譯簿ハ其日ノ收支締高ヲ以テ記入シ別ニ書留簿ヲ設ケ一ト廉毎ニ記載整理スルモノトス)

前項雜部金受入ノ場合ニ於テ中央金庫ニアツテハ收支金報告表(他ノ雜部金中へ組込ム)へ本金庫ニアツテハ雜部金收支報告表(上)へ記載スヘシ

第四條 乙地ノ支金庫ニ於テ爲替納金ヲ領收シタルトキハ現金受拂簿中爲替納金ノ科目ヲ設ケ之レカ受入ノ記帳ヲナスヘシ
前項爲替納金ヲ領收シタルトキハ毎日第三號書式ノ爲替納金報告書ヲ調

製シ之レニ爲替納金請求書及爲替納金領收證書原符ヲ添へ其支金庫ヲ總轄スル所ノ中央金庫又ハ本金庫へ送付スヘシ

爲替納金ヲ領收シタル支金庫ヲ總轄スル所ノ中央金庫又ハ本金庫ニ於テ前項ノ報告ヲ受ケタルトキハ總テ納人ヨリ直接ニ領收シタルモノト等シ

ク第三條中央金庫本金庫トモ雜部内譯簿摘要ニ手續ヲナスヘシ

第五條 甲地ノ金庫支金庫ニ於テ乙地ノ金庫ヨリ發行シタル爲替納金領收

證書ニ納額告知書徵稅令書納入告知書拂込書返納告知書若クハ其他納金ニ要

スル書面ヲ添へ納人ヨリ納付シタルトキハ之ヲ現金ト同視シテ領收スヘシ

シ

前項ノ爲替納金領收證書ハ現金種別簿銀貨紙幣銅貨中央金庫及大阪本

中へ組入之レカ計算ヲナスヘシ

支金庫ニ於テ領收シタル爲替納金領收證書ハ毎日之レヲ其支金庫ヲ總轄スル所ノ中央金庫又ハ本金庫へ回送トシテ拂出シ送付スヘシ

第六條 甲地ノ金庫中央金庫又ハ本金庫ニ於テ領收シタル爲替納金領收證書其支金

テ領收シタルハ乙地ノ金庫中央金庫又ハ本金庫へ回送トシテ拂出シ而シテ其爲替納

金領收證書ニ第四號書式ノ回送金差立書ヲ添へ乙地ノ金庫中央金庫又ハ

向ケ送付スヘシ但本文回送金中央金庫取扱ニ係ルモノハ差立ノ際回送及

振替受拂報告表回送金差立書ノ番號及乙地ノ金庫名ヲ記載スヘシ

甲地ノ金庫中央金庫又ハ本金庫ニ於テ乙地ノ金庫ヨリ前項回送金ニ對シ第七條ノ

回送金領收證書ヲ得テ回送科目ノ決算ヲナシ回送拂出科目中央金庫ハ各

目へ轉記スヘシ爲替納金領收證書ヲ以テ回送拂出ノ場合ハ帳簿上特但回

送拂出ノ場合ニ於テ本金庫ニアツテハ回送及振替受拂報告表回送金差立

乙地ノ金庫名ヲ掲ケ他ノ分ト混同セサル様注意ヲ要スヘ記載スヘシ

第七條 乙地ノ金庫ニ於テ第六條第一項ニ據リ甲地ノ金庫ヨリ回送トシテ爲替納金領收證書ヲ領收シタルトキハ曩ニ受入アル雜部(爲替納金)ヲ拂出シ更ニ回送受入ノ記帳ヲ了シ而シテ其回送金ニ對シ明治二十三年大藏省訓令第十五號附屬第一號書式ノ回送金領收證書ヲ調製(領收證書ニハ番號ニハ發送先金庫名ノ下段ニ各回送金差立書ノ番號ヲ記入スヘシ)シテ甲地ノ金庫ヘ送付スヘシ(爲替納金領テ回送受入ノ場合ハ帳簿上特ニ回送金差立書ノ番號等ヲ記入スヘキハ第六條第二項ノ割注ニ同シ)

前項雜部金拂出ノ場合ニ於テ中央金庫ニアツテハ收支金報告表(他ノ雜部込ム)ヘ本金庫ニアツテハ雜部金收支報告表(上)ヘ記載シ又回送受入ノ場合ニ於テ中央金庫ニアツテハ回送及振替受拂報告表(回送金差立書ノ番號及甲地ノ金庫名ヲ掲ケ他ノ分ト混同セサル様注意ヲ要ス)ヘ本金庫ニアツテハ回送及振替拂報告表(上)ヘ記載スヘシ

シ

第八條 第一條ニ據リ納人ヨリ乙地ノ金庫(支金庫共)ヘ現金ヲ爲替納ニナシタル後若シ事故アリテ下戻ヲ要スルトキハ歲入金其他納金ヲ取扱フヘキ收入官吏ヨリ乙地ノ金庫ヘ下戻ノ通知書ヲ發スヘシ

乙地ノ金庫(支金庫共)ニ於テ最初交付シ置キタル爲替納金領收證書ヲ以テ納人ヨリ下戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ前項通知書ニ對查シ該爲替納金領收證書裏面ニ現金領收ノ旨ヲ記載署名捺印ヲナサシメ其領收證書ト引替ニ現金ヲ交付スヘシ

第九條 乙地ノ金庫(中央金庫又ハ本金庫)ニ於テ第八條第二項ニ據リ爲替納金ヲ下戻シタルトキハ曩ニ受入アル雜部(爲替納金)拂出ノ記帳(支金庫ニ於テ下金ニシテ本金庫ヘノ報告翌月ニ涉リ當該月ノ記帳ニナシ難キモノハ別ニ其支金庫ノ口坐ヲ設ケ記入ヲナスモノトス)ヲナスヘシ

爲替納金取扱順序